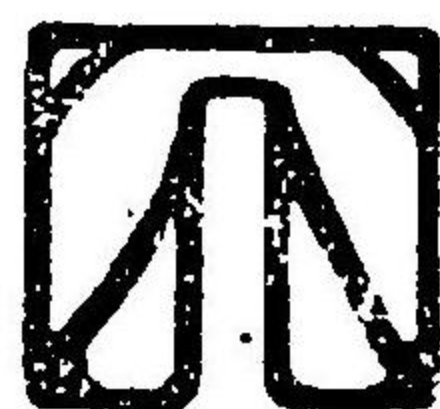
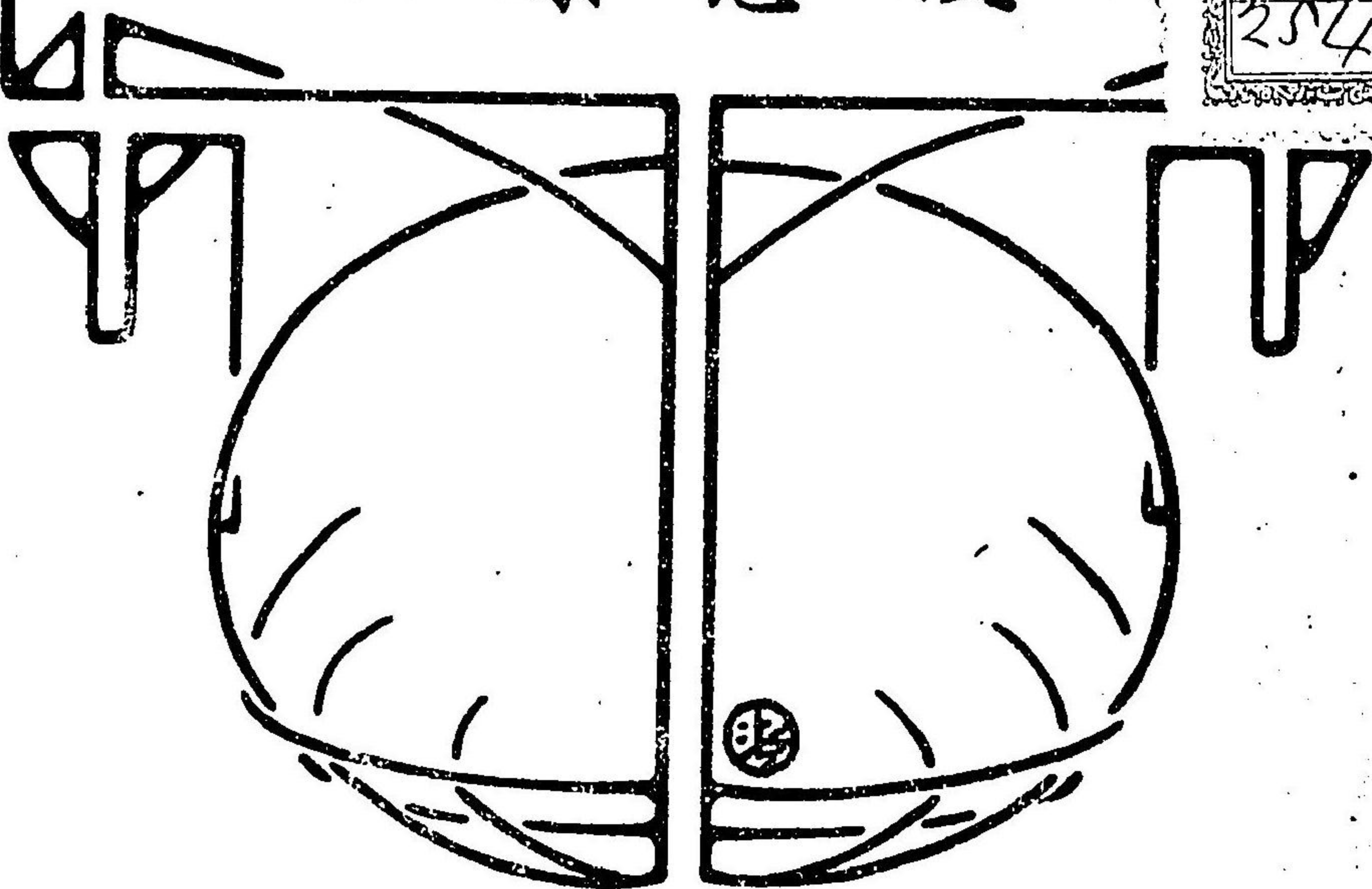


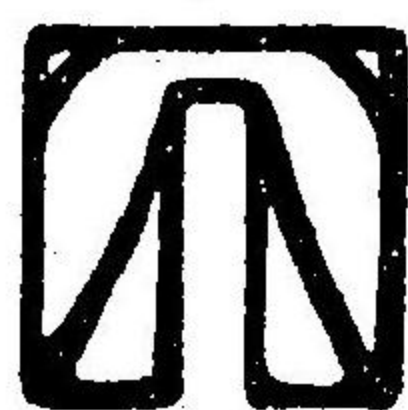
家庭看護法

急救治療法

60
2577



內外出版協會發兌



60-254

ドクトル 兒玉修治述

家庭看護法

救急療法

東京 内外出版協會

明治
43. 5. 11
内蔵

家庭看護法

附 救急療法

目次

第一 家庭看護の心得

一般に必要な看護法◎服薬以上の精神療法◎看護上の慰藉◎患者に對して慎むべき事◎醫師を信用せしめよ

第二 病室と患者の扱ひ方

適當なる病室の位置◎温くて陽氣な室◎換氣と温度の加減◎病室の清潔法◎患者の臥せ方◎如何なる衣服を擇ぶ乎◎患者身體の清潔法

第三 病氣の觀測

體温の量り方◎熱のある時の容態◎熱の起る理由◎脈と呼吸の量り方◎顔色其他の變

徴

○ 第四 急性傳染病の手當……………六

腸窒扶斯傳染の原因◎腸チブスの容態◎營養法と飲料◎赤痢の原因と症狀◎赤痢の手當と消毒法◎虎列刺の症狀と手當◎猩紅熱と看護法◎ペストの症候と取扱法

第五 傳染病諸般の心得……………四〇

狂犬病の症狀と取扱◎痘瘡の症狀と扱方◎發疹チブスの症狀◎流行感冒の症候◎流行感冒と快復の注意◎マラリアと看護法◎傳染病と清潔法◎隔離中の心得◎消毒法のいろく

第六 呼吸器病の取扱……………五三

氣管支加答兒の豫防◎氣管支加答兒の看護◎喘息患者の取扱◎加答兒性肺炎の手當◎急性肺炎の處置◎肺結核の病源と症狀◎肺病看護上の忍耐◎肺病と消毒法◎肋膜炎の手當◎心臟病の取扱

第七 胃腸病と看護法……………五五

急性胃加答兒の手當◎慢性胃加答兒の取扱◎胃潰瘍と胃癌◎胃痙攣と胃擴張◎腸加答兒の原因と症狀◎腸加答兒の手當◎盲腸炎と腸結核◎十二指腸蟲の手當

第八 腦神經諸病の手當……………五七

神經病の原因◎神經病の攝生法◎神經病と看護法◎頭痛患者の取扱◎腦出血の手當

第九 脚氣と痲痺質斯……………六一

脚氣患者の取扱◎關節炎の手當

第十 小兒病と母の心得……………六五

實扶的里の原因と症狀◎實扶的里の手當と看護◎小兒肺炎の容態◎小兒肺炎の看護法◎百日咳の手當◎麻疹の症狀と經過◎麻疹と看護の注意◎小兒と下痢の手當◎小兒腹痛の手當◎小兒感冒時の心得◎腦膜炎の症狀◎腦膜炎の應急處置◎小兒癲癇の心得◎夜驚症と母の心得

第十一 婦人病と出産前後

血の道の變調◎血の道と看護法◎出産前の準備◎産床の設備と必需品◎産婆の來るまでの用意◎産婆の間に合はぬ時◎臍帶の截斷法◎産後母體の手當◎初湯の使はせ方◎嬰兒其他出産の後始末

第十二 醫師の手助

藥液蒸氣吸入法◎洗滌法いろく◎浣腸法のいろく◎皮下注射法◎濕布繃帶のやり方◎冷巻法と溫巻法◎芥子泥と水蛭の貼け方◎繃帶諸般の心得◎病人に供する飲食物

附 救 急 療 法

一 窒息の應急手當 煙に巻かれた者 水に溺れた者 首を絞つた者 瓦斯中毒の氣絶 二 人工呼吸法のやり方 三 卒倒者の救急處置 四 痙攣時の應急手當 五 出血の手當 鼻出血 口中出血 子宮出血 六 齒痛と耳痛の療法 七日射病の救急法 八 中毒時の救急法 九 魚類中毒の手當 河豚の中毒 鯖や鮪の中毒 十 茸中毒の手當 十一 酒と葷の中毒 十二 外傷の應急療法 挫傷の手當 危急時の注

意 打撲の手當 刀物の切傷 釘や硝子を踏抜いた場合 十三 火傷の簡易手當 十四 戦赤裂れの療法 赤裂れの藥 凍瘡の藥 十五 狂犬に咬れた時の手當 十六 毒蛇蟲類の害を受けた時 毒蛇に咬れた時 蜂毛蟲等に螫された時 十七 家庭備付の應急藥品 外科用塗布藥 散布藥と消毒藥 吸入藥と含嗽藥 外科材料 鎮痛劑と下劑

家庭看護法

附 救急療法

第一 家庭看護の心得

◎一般に必要な看護法◎服薬以上の精神療法◎看護上の慰藉◎患者に對して慎むべき事◎醫師を信用せし

昔の武士が『治に居て亂を忘れず、泰平に處して武備を懈らず』と言つた通り、人は健康無事の日ひに於て、萬一の變事に備ふるの準備が無くしてはなりません。如何に無病息災を以て誇るの人でも、永い一生の間にはどんな重病に罹らぬとも限らぬ。大隈伯が百二十五歳まで生きて見せると威張つてゐるのも、畢竟は伯自身の體質如何より

も、平生の攝生が行届いて居るからです。その攝生とは何であるかと云ふに、多少醫學上の智識——衛生や看護上の心得に由るので、人の健康は決して偶然に保たれるものではありません。そこで近來専門學校以外の女學校等にも、特に「衛生看護」の學課を設けた所もあるが、之は寔に結構な事で、希くば一般の家庭にも這の智識を普及せしめたいものです。

勿論病氣の際には醫者もあれば病院もある、その上出費さへ惜まらず立派な博士を抱へて、立派な看護婦を雇ふ事が出来るから、敢て素人が心配せずとも濟むやうになつて居る、けれども生計向の都合で、それが叶はぬ場合もあらうし、或は又財産があつても、大醫や大病院を煩はすほどの病氣でない事もある、それに草深い田舎になると醫師を迎へるにしても急の間に合はぬ例も往々ある。そんな際に一家の主婦なり娘達なり何人か一人、衛生や看護上の事を一通り心得てゐて、責めて醫師が来るまでの應急手當でも出来たなら、どんなに助かることとせう。設令や立派な看護婦を雇ひ

得るにせよ、他人の看病ではどうしても充分に行届かぬ、如何に親切にして呉れても、病人にとつては家族の者のやうに思ふやうに行くものでない。そこで一通り、看護上の智識と應急手當の心得とがあれば、第一態々看護婦を雇入れる必要もなく、且又萬一の變事があつても、狼狽せずに急を救ふことが出来ます。

服藥以上の精神療法

一般の家庭に看護法を知るの必要なることは以上述べた通りですが、さて之を實習するに就ては、先づ患者に對して左の心得が肝腎です。

- 一 親切を旨として病人を勞り慰め、精神を安靜ならしむる事。
- 二 患者をして家事俗用を忘れしめ、只管嗜好の遊戯談話等の相手をする事
- 三 看護者は自ら身體其他を清潔にして忍耐、靜肅を守り、病人の邪推を招くが如き言語を慎む事

四 醫師を信用せしめ、成べく之を取換へざる事、但し患者の信用せざる醫師には

最初より診せぬ事。

五 病者の容態を詳しく病床日記につけ、更に、醫師の命令を守りて、薬用其他規則正しく勵行する事。

ざつと右の五項が主なる要件ですが、更に之を細く説明すると、第一に深切と同情とが患者に對する無上の療法です。病は氣からと云ふ位ですから、患者の精神の持ちやうと看護人の注意如何によつて、或場合には服薬せずとも癒る人もあります。重病者は勿論服薬もおろそかにはならぬが、それよりも氣を以て癒す精神療法が肝腎です。如何に名醫の手によつて適宜の薬劑を投じて、患者自身が「此病は助からぬ。」癒らぬ。」と悲觀して居つては容易に治るものでない。だから恁那場合には成べく病人に氣力をつけて「必ず治る。」といふ自信さへ與へておけば、可なり 難症でも精神的に癒る例も少くない。そこで大抵の人は病氣に罹ると愚痴つぼくなるもので聊かな事でも取越苦勞をして「癒るだらうか癒らぬだらうか。」と同じやうな事を繰返しく看護人

に訊きたがるものです、之は随分五月蠅いものです、然し其愚痴や泣言は忍んで聽いてやらねばなりません、若しこんな時『そんな詰らぬ事を』などと一言の下に斥けやうものなら、それこそ落膽して、不親切だとか、冷酷だとか邪推して病を重らしめます、又所詮快復の見込ない病人でも、少しく熱が降つて食欲でもつくやうになると、最早癒る事は請合だと自分だけ信じて大悦びに悦ぶ者がある、外見眼から見ると實に涙の種ですが、然し此際看護の任にある者は決して心配さうな顔をしてはなりません、左なきだに過敏なる病人の神経は、忽ち其心配貌を臆測つて、一旦快復した勇氣を喪ふやうになる。だから飽まで患者の空想に賛成して、慰めてやらねばならぬ。

患者に對して飽まで親切に同情して、勞り慰める事は今申す通りですが、然しそれには程度があつて、何も彼も御無理御尤で通させては不可ない、老婆さんが我儘な孫を育てるやうに放逸に流れては、看護人の言ふ事などは勿論、醫師の言さへ用ひなくなつて、不攝生に陥るから、時には斷乎として諍々と戒めねばなりません、特に子

供の如きは甘くしすぎると、益々圖に乗つて我儘を言ひ出すものですから、其邊は大に看護人の手心を要するので、臨機應變の處置が肝腎です。

看護上の慰藉

次に患者をして家事や俗用を忘れしめて、精神を安らかにし、成べく嗜き好む娛樂や談話相手をして慰めるのも、精神療法の一つです。左なきだに身體の苦しい所へもつて、金錢の話だとか、取引上の懸引だとか、訴訟事だとか云ふやうな俗用を耳に入れては、亂れた神経が益々荒れて病勢が募るばかりである。ですから如何なる事情があらうとも、病人には生活其他の心配を一切聞かせぬやうに努めたが宜しい。成べくならば俗用向の來客を謝絶つて、只管嗜き好む道の風流とか、歌俳諧とかいふやうな事に心を傾けさせ、看護人も亦そのお相手をして、精神を落着かせる工風をせねばなりません、同時に酷く神経を刺戟するやうな話は、何の病氣に拘はらず大禁物です。例へば殺人犯だとか、放火犯だとか、強盗だとか、血塗れ沙汰だとか、凡て患者の神

經を亢奮させるやうな慘酷な話は、屹度避けねばならぬ。随つて新聞記事でも、餘り血腥い事があつたら、猶且見せざるに如くはない。

患者の前に慎むべき事

第三には看護者の身體衣服を清潔にして、忍耐と靜肅を守る事である、兎角病人は神經過敏なるものですから看護する者の身邊が汚いと、あの手足の垢が食物の中へ這入りはしまいか、彼の穢れた衣服の微菌が服藥の中へ混りはしまいかと、些細の事に神経を惱まして、果ては食慾が進まぬやうになる、ですから看護人は充分身體や手足を清潔にすると共に、衣服も成べく清淨なものを選んで、見るから氣持の好いやうに注意せねばなりません、次に忍耐と靜肅といふ事ですが、忍耐は申すまでもなく、我儘な病人に對するのだから、小兒を扱ふと同様な心をもつて飽までも我慢をし、萬事靜肅を旨として患者の氣を亂さぬやうに心懸けねばなりません。それから病室内に於て他の人と密々話をしてはならぬ、耳打話などすると、病人は直ぐ自分の事だと邪推

家庭看護法

を廻すものですから、内証話は大禁物です、而して患者から物を問はれた時、曖昧な返答をしては可けません、良くとも悪くとも嗟乎した事を言はぬと、之も猜疑を招く種になります。

醫師を信用せしめよ

「鰯の頭も信心がら」と申す諺の通り、病は薬ばかりで治るものでない、だから、如何に名醫でも患者の信用しない醫師にかけては、到底快復なりません、そこで病人には醫師を充分信用せしめて、一旦信用した醫師はヨク／＼の事情のない限り取換へてはならぬ。ところが世間では、少し病氣が永びきでもすると、患者はじめ家族の者までアノ醫者は駄目だとか、診斷が違つてゐるのだらうとか、疑つて三人も五人も取換へて尙ほ安心が出来ぬといふ有様、随つて病人はドノ醫師が好いのか當りがつかなくなつて、迷ひに迷ふから病氣は益々募るばかりである。看護の任にある者は宜しく此邊の理を考へて『此の醫師にかゝれば必ず治る』と云ふ信念を抱かしめて、精神療法を

專一とせねばなりません。又病人の顔色や、脈搏や熱の昇り降りや、食事、便通、薬用の模様などを仔細に觀察して、一々病床日誌に記し、醫師の命を仰いで、その吩咐通り規則正しく行はねばなりません。

第二 病室と患者の扱ひ方

適當なる病室の位置◎温かくて陽氣な室◎換氣と温度の加減◎病室の清潔法◎患者の臥せ方◎如何なる衣服を擇ぶ乎◎患者身體の清潔法

患者に對する看護上の心得に次いで、必要なる事柄は病室其他の設備である。病室の設備が良いと悪ひとは常に看護上ばかりでなく、治療上にも大關係がある事ですから、之は充分便宜の好い所を擇ばねばなりません。其の要點は、(一)位置の宜しきこと。(二)明るくして空氣の流通宜しき事。(三)適當の廣さと温度の加減。(四)病室の清潔及び整理等ですが、先づ位置の方から説きませう。

適當なる病室の位置

田舎ですと邸も廣く室數も相當にあるから適宜の位置を擇ぶ事も困難でないが、都會の地では比較的室數が少いから、充分理想的の病室は得られません。それも洋風の家ですと室毎に仕切りが嚴重で、隣室の喧騒が餘り響かぬから、光線と空氣の流通さ

へ良ければそれで結構だが、日本風の建築では室の仕切りと云つても、襖や障子位なもので、靜肅を旨とする病室に適する室は澤山ないやうだ。一體多くの病人は周圍の騒々しいのや、小兒の哩々云ふ所を嫌ふもので、殊に見舞人などが家族の居間にゐて、何の彼のお喋舌するのは非常に患者の心を惹いて、安靜を防げるものですから、室數の多い家だつたら成べく奥座敷か離室のやうな所がよろしい。

病人を二階におくのは、割合に靜かで光線や空氣の流通も好から、先づ不都合はないやうなもの、然し看護上には何かと不便がちで加之火事の如き不意の出來事の際に困難を來すから、猶且下座敷の閑靜な所に越したことはない。そこで車馬織るが如き都會の家であつたならば、街路に面しないで四方に窓のある靜かな室を擇んだ方がよろしい、南をうけて日射りよく、廣さは六疊乃至八疊位が適當です。

温かくて陽氣な室

暗い室は陰氣で不快で、健康な人が住むにも衛生上宜しくない、況んや病人にとつ

ては暗い室ほど氣を腐らす所はないから、是非とも明るくてバツと眼の醒めるやうな陽氣の室でなければなりません。然し盛夏の日光が餘り強く射し込みすぎると却て宜しからぬ、暑からず寒からぬ程度に於て、光線の調節が必要です。それに注意すべきは、眼病、偏頭痛、恐水病、其他興奮性の病者には餘り陽氣な室はよくない、寧ろ稍や陰氣な所が適します。又病室は終夜燈火を點けておかねばならぬけれど、大抵の病人は餘り強い光を嫌ふものです、故に電燈ならば其球部を手巾か白紙に包み、洋燈ならば笠に白紙を垂れて光を遮る工夫をする事、それから洋燈の心を低くしておく、油煙が上つて室中に臭氣が満つるから、心は低めずに其儘室の隅へ寄せて顛倒の俥れない場所に置いた方が可い。

換氣と温度の加減

換氣は空氣の流通をよくする事で、室内に於ける空氣の流通が悪いと、健康な人でも往々瓦斯中毒を起すことがある。況して病人にとつては空氣の流通が悪い所ほど不

衛生の事はないから、充分空氣を換へる工夫が肝要です。併し秋冬の寒い時分に雨戸や障子を明けツ放しておく譯に行かぬから、室内を温かにして、而して空氣の通るやうにせねばならぬ。又夏分の暑い頃なら夜分でも雨戸を開放して、新鮮な空氣を換へる事が必要だけれど、患者の身體が冷えるやうであつたら、内方の障子だけ閉めた方が宜しい。次に病室の温度はどうかと申すに、普通健康者に適する室内の温度は、華氏六十二度乃至六十五度で、これより低ければ手足が冷たいし、高ければ少々熱すぎて頭痛がしたり、逆上たりする、然し病人は病氣の性質によつて加減せねばならぬ。熱病性の患者だつたら五十九度か六十度が適宜で、又貧血性の病氣ならば六十五度以上七十度位にせねばなりません。されば温度の加減は醫師と相談して、臨機應變の處置をとるの外はない。

室内の温度を保つには蒸氣鐵管か暖爐ならば此上の事はないのですが、普通の家庭にはその設備のある所は稀だから、茲には火鉢の火で温める事として、左に注意すべ

き點を述べませう。

火鉢に入れる炭は別室に於て燻し、然る後病室に運んだ方が宜しい、憊うすれば炭の爆ねる憂もなければ、炭素瓦斯の悪臭を發する事もない。

火鉢を患者の枕元に置くと、動もすれば逆上る事があるから、成べく距しておいて火の上には湯沸をかけて置く事。

而して病室内には寒暖計をかけておいて、寒かつたら温め、熱かつたら、冷氣を入れねばならぬ。夏の暑い時など病人は一層熱苦しいものですから、戸障子を全部開放するは勿論、軒端には簾の日掩を施して日光を防ぎ、庭には水を撒いて冷氣を納れるやうにする、それでも未だ暑かつたら、氷塊を室内において涼しくする工風をせねばなりません。

病室の清潔法

病室の掃除は一日に一回乃至二回位にして掃き出す際は、患者を別室に移してやれ

ば一番可いのでけれど、動かさない病人は其儘にしておいて、塵埃のかゝらぬやうに頭へ羽織か單衣の如き物をフワリと被せて、それから掃除にかゝるが宜しい。又嚴寒時は障子を明け放す譯に行かぬから、箒を静かに使つて塵埃の附着した部は、熱く絞つた雑巾で疊を拭き、又毛布座布團の如きは室外へ持出して充分埃を振り去らねばならぬ。其他不用の器具は病室へ置かぬやうにして、薬品や醫療器具等も成べく枕頭から遠い所く置き、使用後は必ず舊の處に納め、凡て物品の散亂しないやうに整頓せねばなりません。

次に患者の寢具は衛生上藁蒲團が宜しい。其の上へ柔かな敷布團を重ね、下敷には大なる天竺木綿の巾を布き、一週間に一度或は二度位洗濯して取替るやうにし、便器は臭氣や疊の汚れるのを防ぐ爲め、必ず室外へ置くに限ります。

患者の臥せ方

病室その他の設備が出来たら、今度は病人をどんな風に臥させたら可からうか、之

も亦聊か考へねばなりません。病床の位置は前後左右を自由に通行出来るだけの空地を明けて据ゑ、そして患者が横を向いたら庭でも眺められるやうに臥させた方がよろしい。患者の頭部は成べく壁や高窓に接近せしめては可けません。其故は頭の上が直ぐ窓ですと、患者の眼界を狭くする上に、夏の暑い時などは風透しが塞がつて、旁々衛生上よろしくない。臥床の据ゑ方と共に注意すべきは看護人の坐る位地です、看護人は病人が臥ながら其顔の見える所に坐つてゐねばならぬ、でないと思者は物を言ふ毎に頭を動かさねばならぬといふ不便が生ずるからです。又廣やかな病室であつたら、看護者は氣轉を利かせて折ふし病床の位置を移す必要がありません、之は些細な事やうですが、天井板や障子の棧をのみ勘定しつゝ退屈で堪らぬ患者の眼には、此上もない慰藉となるものです。

如何なる衣服を擇ぶ乎

衛生上から言へば病人に適する衣服は、第一温味を保つもの、第二湿氣を導かぬもの、第三皮膚を刺戟せざるもの、第四洗濯や消毒に耐へる物等で、此點からすればフランチルの如き毛織物が最も適します。けれども常人と異つて病人は大抵臥床の中に居ることですから、必ずしもフランチルでなくとも、木綿物の方が却て洗濯その他の爲に宜しい。絹布類も決して悪いとは申さぬが、熱の昇降する患者には、發汗時の衛生上、下着は木綿物に限ります。

西洋では重病病人に着せる爲に、特別仕立の襯衣が出来てゐるが之は一寸便利なものです。その襯衣の仕立方は前面の胸部と兩腕を披くやうに截割つて、紐で結び止めるやうになつてゐる、ですから衣服を着換る際には、患者は身體を動かさずとも、看護人が其紐を解いて一方の端を曳けば、容易に脱げるのです。尤も輕症患者ならば床上へ坐つて、自ら脱いだり着たりする事も出来るから、大した世話はないが、その自由の適はぬ病人には、是非今申すやうな襯衣を用ひるか、左もなくば他に何とか工夫して、輕便な病人服を作る必要があらうと考へます。

患者身體の清潔法

病院に於ては病人の身體其他の清潔法は充分行届いて居るけれども、普通の家庭ではそれが行届かぬばかりでなく、病人に湯を使はせては可けないとか、手足を洗へば感冒をひくとか云つて、身體の清潔などは病人にとつて何等の關係がないものゝ如く思つてゐる人が多いやうだが、之は大なる誤解です。そこで病中と雖も朝眼が醒めたら平常の習慣通り、顔面口中等を洗ふ事を怠つてはなりません。重病患者で動けないやうな人であつたら、看護人は微温湯で顔面と口中を洗つておやりなさい、殊に口中の清潔は最も忽にならぬもので、之を怠ると各種な微菌が齒の間などに發生して、怖るべき病を併發することがあります。次に清潔を要するのは婦人の頭髮ですが、之は成べく簡便に結ぶを良しとします、屢々櫛を入れる事を好まるゝ方は、櫛巻にして置くか、又は束ね髪にした方が宜しい。餘り永く寝ついて毛髪の汚れた場合には醫師の許しを得てお洗ひなさい。

無精な病人の子供の頭髮には往々虱の湧く事がある、其際には速に驅除かねばなりません。之を放抛ておくと濕疹と云つて頭に痂をはるやうになります。又手足の爪もチヨイ／＼短かく摘みとつて、爪の間に垢の溜らぬやうにして置かないと、不潔物の爲に屢々皮膚病を起す事があります。凡て入浴や腰湯は病人にとつて、一概に害と限らず、或場合には有効なものですから、醫師の許しを得たなら、清潔を兼ねて怠らず入浴する方が得策です。

第三 病氣の観測

體温の計り方①熱のある時の容態②熱の起る理由③脈と呼吸の計り方④顔色其他の變微

病人の枕頭に坐つて其機嫌をとつたり、藥餌を服ませたりするばかりが看護人の務めではありません。病人の容態を察し、経過を見て今日は好いとか悪いとか云ふ判断を下し、更に何病氣にはどんな徴候があつて、どう云ふ風に變化するとか、容態が恁那だから餘病を惹起しはしまいかとか云ふ事を一々診てとつて、醫師に相談するのが肝腎な任務です。何病氣に拘はらず先づ第一に變動を起すのは體温と脈搏で、この二合によつて身體に異状があるか無いかは、烏渡素人にも解ります。そこで熱の話から述べませう。

體温の計り方

病氣の時に熱を計る事は最も大切なることで、體温の如何によつて病が何處にある

か、又何の病であるかを判断する事が出来ます。それ故に看護人は先づ以て此の計り方を知るの必要があるで、檢温器を脇の下へ挟んで熱を見るのが普通の行り方ですが、病人によつて種々な所で計ります。小兒などは腋の下で計り悪い事があるから、その時は腿の褶、又は肛門、腔等に入れて量ります。何分間位入れて置くかと云ふに、通常の檢温器ですと十五分間、近頃改良されたものでは三分か四分で計れます。

食事の後や神經を興奮させた時には熱が上るものですから、計る前には成べく靜かに心を落著ける必要がある、體温の標準は健康の人で平均三十七度、小兒はそれより稍や高く老人は一般に低い、悉しく言へば

- 十歳以下の小兒は平均三十七度五分
- 二十歳より三十歳位迄三十七度一分
- 三十歳以上六十五歳迄三十六度九分
- 七十歳以上の老人は三十六度五分

尤も之は平均の數で、人によつては同じ年配でも多少の差はあるし、又一日の中でも朝と晩とで幾干か異ひます。夜中の一時頃が最も低く、それより朝の九時迄少しづつ上る、更に九時から正午の十二時まで上り、正午から再び上つて午後五時と八時の間は最も高くなる、此間が一日中の最高時です、此事をよく熟知で居て、熱を計る時間を誤らぬやうに溫度表へ記入して置かねばならぬ、すると、醫師は其表にあらはれた曲線を見て、何の熱だか凡そ判断する事が出来ます。

熱のある時の容態

體温が上つて來ると身體に種々の變化を來すもので、第一に脈搏が増して來る、若し熱が餘り高くなつて、脈の搏方が疾すぎたら、多くは悪い兆候だから、醫師に急報せねばならぬ、然し熱が非常に高い割合に脈の増し方が少い事がある、腸窒扶斯の如きは多くそれです。又熱が続けば呼吸が淺くなつて其數が増して來る、之は熱の爲に酸素の消費さるゝ量が多くなり、従つて呼吸の數を多くして、空氣中から多くの酸素

を吸入する必要があるので、次に熱が出ると口中や舌が乾き切つて食物の味がなくなると共に、食慾が減ります。其他頭痛や眩暈がしたり、身體の全部が何處となくダルクなつたり、時としては關節が痛み、猶ほ劇しくなれば全く知覺を失ひ、或は嚔言を云ふやうになるのは、凡て熱の爲です。そんなら此の熱は何故に起るものであるか、之は稍や専門的に涉りますが、然しその理由ぐらゐは素人でも略と知つて置く必要があります。

熱の起る理由

人間の身體は一方に於て適度に熱を製造すると共に、他の一方に於て適度に之を失ひますから、絶えず平均を保つ事が出來て、常に三十七度の體温になつてゐるのです。ところで何かの故障を生ずると此平均を失つて、熱の製造が増加する割合に、發散する方がそれに伴はなくなるから、體温が上つて熱が出て來るのです。そこで身體を組織てゐる細胞を刺戟しては新陳代謝の度を常よりも多くさせると同時に、熱を上らせ

る原因は何かと云へば、ざつと恠です。

身體の中へ或る微菌の毒が入れば熱が出るもので、今化膿の微菌が入つて此處が膿むとすれば、その細胞は微菌の毒の爲に刺戟されて新陳代謝が盛んになるから、盛んに熱が出るのです。然しそれが破れて膿が外へ出て下へば熱は下ります。又腸の中に不消化物の腐敗したものや、或は大便秘結して居れば之が刺戟となつて熱が出ます。此時に下劑を飲んで便通をよくすれば熱は漸次に下ります。其他神經を刺戟しても熱が出る、そこで色々の苦勞や心配を重ねると發熱する、人と争つたり怒つたりすると逆上て來るのは、皆な以上の理由から熱が出るのです。

脈と呼吸の計り方

病氣の際體温に次いで變動のあるのは脈搏です、脈の數は健康の大人で一分間平均七十乃至七十二を以て普通としますが、病氣になると之が著しく増減する、大抵は體温に伴うて増減するものですが、血の循環に障りのある時は熱が無くとも脈の數が多

くなるし、又熱病者になると、高熱の際にも脈の減る事があるですから、病氣の質によつて一樣には言へないが、普通年齢と脈數との比例は左の如きものです。(但し一分間の脈數)

初生兒	一三五	十五歲	七八
二歲	一二五	二十歲より	七〇—七二
三歲	一〇〇	五十歲迄	七五
五歲	九二	六十歲	七七
十歲	九〇	七十歲	八〇
		八十歲	

凡そ右の比例で小兒が最も脈數多く、健康の者が一番少くて老人になると、又少し増加する、之が病氣になると非常に増したり減つたりする、随つて脈の搏方が餘り強くとも良くなければ、弱すぎても悪い兆候です、死期が迫つて來ると、指を觸れても解らぬほどに弱くなるものですから、爾うなつたら既う油斷がなりません。

脈搏に次いで病勢に關係のあるのは呼吸です。之は健康な大人の平均が一分間に十六回乃至十八回で、普通脈数の四分一の比例になつてゐる、それが熱病、呼吸器病、心臟病等になると俄かに其數が増加するし、又或る病氣によつては、呼吸のさしひきが不正になつて一定の淺深が亂れて來る、この呼吸を測るには、時計を見ながら患者の前胸部へ軽く手を當てて見るのです。

顔色其他の變徴

病氣の徴候は最初先づ顔面に現はれて來る、貧血症の患者は顔色が蒼白くなるし、熱病、腦充血等は紅色を帯びて耳朶まで熱します。肺病患者の中には他の部分が蒼白くて、頬のみ紅色を呈するのがある。又俄かに顔色の眞蒼になるのは、惡寒、癩痢、瘧疾、腦貧血、出血等の徴候です。恙る際には眼の色がドンヨリと曇つて生氣がなく、物を視るさへ眩しいやうな容態になる。又熱病性のもものは眼球が血走つたやうに濁つて、眼瞼を開いて見ると紅く充血してゐる、又唇の色は紫色に乾き切つて光澤がなく、

舌は白く舌苔が出來て、齒齦が膨脹むと共に、熱をもつて來る。

次に胃腸病の兆候は、一時非常に食慾が進んだり俄かに食が減つたりする、而して下痢をするかと思へば、忽ち便秘して四日も五日も通じのない事がある。それから食慾は普通以上に進みながら、漸次瘦せる症がある、之は條虫か、蛔虫か、十二支腸虫が生いたのだから、其手當をせねばなりません。其他身體に異常のある時は、大小便の色が變つて口中の息が臭くなる、そんな時は直ちに熱を計つて見て、醫師に相談をなさるが可い。

第四 急性傳染病の手當

腸炎扶助傳染の原因◎腸チブスの容態◎營養法と飲料◎赤痢の原因と症狀◎赤痢の手當と消毒法◎虎列刺の症狀と手當◎猩紅熱と看護法◎ハストの症候取扱法

普通の病氣なら徐々と來るから左程怖ろしい事はないが、傳染病は少し手後れになると一命が危いばかりでなく、他にまで迷惑を及ぼすから實に危険です。尤も一口に傳染病と云つても急性もあれば緩性もある、其急性のものは避病院あり、公私病院の隔離室なりへ收容されるから、敢て素人の看護を要さないやうなものであるが、然し他人の看護にのみ依頼してはおけぬ、猶且母親なり細君なりが附添へになつて、充分看護をせなければなりません。そこで傳染病にはいろいろ種類もあるが、先づ其中の主なるものを舉れば、

- (一) 腸炎扶助 (二) 赤痢 (三) 虎列刺 (四) 猩紅熱 (五) ペスト
- (六) 狂犬病 (七) 痘瘡 (八) 發疹チブス (九) 流行感冒 (十) マラリア

等であるが、この内一より五までは甚だ急性で恐るべき病です、茲に順を追うて發病の原因、經過、看護法等を述べませう。

腸チブス傳染の原因

一體これはチブス杆菌と云つて、劇しい毒のある細菌が腸の中に出來るのです、それが大便に交つて排泄されるから、其細菌が細菌を生んで、方々へ傳染するやうになるのです。而して傳染の媒介は何であるかと云ふに、多くは井水、川水、便所、其他飲食物から感染するので、偶には蠅や鼠が他のチブス菌を背負つて來て移す事がある、最も危険なのは長屋の共同井戸で、近所に此の患者があつたら、決して共同の井水を使つてはけません、發病の時節は夏の末から初秋の頃が一番多い、と云ふ譯は九月頃は細菌の繁殖力が最も劇しい上に、一般の人が胃腸を害し易い季節だからです。然し一度チブスに罹つた人は大抵二度と感染しないやうです。年齢は十二三歳から二十歳前後に最も多くて、老人や幼兒は滅多に之を患ひません。

室扶斯の容態

腸室扶斯の徴候は、最初身體中が何となくダルクて食欲が少しもなくなる。それに頭痛がする、一日に二三回づつと悪寒がして熱が出る、それから一週間ほどすると頭痛が劇しくなつて、非常に咽喉が渇く、同時に熱は次第に増し舌は乾いて苦が出來、脈は強くなる、鼻血は出る、便秘が澁つて脾臓が少し腫れ出します。それから二週間目になると、熱は止るが病症は益々重くなつて、精神がボンヤリして了ふ、隨つて嚙言を云つたり悪夢に唸されたりする、又氣管支炎を起して咳が出る、腹中がゴボゴボ鳴つて、黄色い豌豆位な下痢をする、腹に澤山の細い藍色の疹出ものが現はれる、是等が主なる症状です、そして經過さへ良くば三週間目から、熱が下つて恢復期に向ひますが、悪くすると此病氣は氣管支加答兒、肺炎、脚氣、耳下腺炎などを併發するから、看護上には一段骨が折れるものと思はねばなりません。

營養法と飲料

軽い腸室扶斯なら三週間か四週間位で療りますが、重いものになると五六週間以上、四ヶ月もかゝるのがある、一體此病氣は恢復方が極めて緩慢なものですから、氣永に養生をせねばなりません。若し營養法を誤つて看護の仕方が悪いと、軽い症が重症と變じて、遂に死んで了ふ事がある、ですから看護人は最も注意して、濫りに食物などを與へてはよろしくない。そこで病人に與る飲料は、清潔な氷か、葡萄酒（水百に生葡萄酒三乃至五分の割合）を混ぜた冷水、さもなければオモ湯が好い。又病氣の初期には滋養分のある牛乳など與へて、五日目頃から消化力の非常に衰へた時には、粥の上汁四分に牛乳一分を混ぜたものを宛がひ、さて又八日目位からソツプを茶々椀一杯づつ、一日に三度與る事にしたが宜しい。二週間後は冷水を廢して赤葡萄酒を一日に三四回（約三勺程宛）やる、それから漸次熱がとれるに隨つて鶏卵の黄味、粥汁、牛乳などをお上げなさい。唯だ茲に注意すべき事は、設令熱が解れて了つて、平常のやうに食欲が進んで來ても、決して固まつた食物を與つてはなりません。全く療なら

ぬ中に飯、パン、野菜、肉類の如き固つた食物を與へると、再び逆戻りして熱や下痢を起し、動もすると腸出血を起して大變な事になるのですから、腸室扶斯ばかりは病氣の最中よりも、寧ろ恢復際が大切なので、此際一步を誤ると、遂に取返しつかぬ事になります。そして病室は常に新しい空気を入れ、寢床を清潔にして、成べく人と面會を避け、精神を安靜にさせて、健康に復したら直ぐ轉地療養をさせるのが一番有効です。

赤痢の原因と症状

赤痢病の原因は同病患者に近寄つた爲に感染したり、又は腸室扶斯と同じやうな原因から起る事があります。此病に罹ると最初左の下腹が痛んで、食慾が進まなくなる、下痢は一日に六七回も續いて、粘液の中へ血が混つて下ります。それから熱が劇しく出るために頭痛がして、腹が頻りに溢ります。此病氣は手當さへ早ければ治るものとしてあるが、生命を失ふ者は尠なくありません。昔は傳染病者のあつた時は、近

所に迷惑をかけるのを怖れたり、交通を遮断されたりするのを厭がつて、醫師に頼んで隠蔽する者が多かつた爲に、益々傳染が烈しくなつた事がある、今でも中流以上の家庭には、此種の者があるさうですが、隠蔽すればするほど病氣の爲に宜しくない。それゆゑ傳染病の患者が出来たならば、早速その筋の消毒を受けた上、自身にもよく消毒法を守つた方が、自他の爲に得策か解りません。

赤痢の手當と消毒法

赤痢の媒介となる病菌は大便秘の中にあるのですから、便器を別にしておく事は勿論、便を棄てる便所も別にして。成たけ人家を離れた場所を擇ばねばなりません。臺所や水井の近い所は大禁物で、若しツツカリそんな所へ棄てると、忽ち食料に混つて家内中に傳染します。又汚れた敷布や衣類を洗ふ場合には、その洗つた水を棄てる時、石灰乳を加へてお捨てなさい。この石灰乳は古くなると効力が無くなりますから、少し水をかけて御覽なさい、消毒の効を持つてゐるのは、水をかけると熱を發して壞れま

す。その新しいのを汚水と同じ分量だけ混ぜて棄てるのです。

さて病人は静かに臥かしておいて、温かい茶を少し與へる外、飲食物を一切禁止、便器で用を足させます。そして大急ぎで醫師の來診を請はなければなりません。又患者の腹部には温巻法を施し、室内には看護人の外出入を禁じて、空氣の流通をよくし、光線を充分に入れねばなりません、恐ろしいものでも圍つて置くやうに、戸障子を閉切つて、空氣も光線も入れぬやうにするのは大なる誤りです。又看護人は一寸でも患者に觸つた部分は一々消毒する必要があります。

虎列刺の症状と手當

近年豫防法が嚴重に行はれる爲に、虎列刺患者は滅多に發生しないやうになつたが、それでも絶無とは限らぬから、用心の上にも用心が肝腎です。虎列刺の病菌は患者の吐瀉物や大便の中に數限りなく居るので、それが便所其他の不潔なる場所、偶然手の指などに着いたのが媒介となるのです。そして此の微菌が一たび人の體内に這入り

込むと、一兩日中に驚くほど殖えて、忽ち吐いたり瀉したりするやうになる、随つて傳染る事の疾さ加減は窒扶斯や赤痢の比ではないですから、虎列刺の潜伏期は一日か二日の間で、突然發病するのです、最初は軽い腸加答兒のやうな症状で、少し經つと急に劇しい吐き下しを起して、病人は見る／＼衰弱する、一般の容態は、先づ皮膚が冷たく乾いて、音聲が嘎洶れ、腹部が凹んで小便が出なくなる、而して脈は弱くして疾くなる、其重い患者は一日とも待たず落命するが、軽い方ですと、手當さへ早くすれば嘔吐下痢を防いで、治す事が出來ます。

虎列刺の取扱方は第一に、身體を温かに包む事が肝要です。先づ湯タンポで全身を温め、場合によつては湯を使はせる事もあるが、それは醫師の命令を俟たなければならぬ。最初より葡萄酒、ブランデーを與へ、嘔吐を止める爲には氷、沸騰散、炭酸水等を飲ましめ、又腸部には芥子泥を貼り、時々はカンフル、エーテル等の皮下注射をします。それで癒らぬものと見做して、看護人は専ら消毒法に努めねばなりません。

猩紅熱と看護法

猩紅熱の病菌は患者の唾液、皮膚の汗、垢落屑等に含まれてゐて、他に傳染するのですが之は赤痢や窒扶斯の如く、單に大便の消毒だけで傳染を防ぐ事は出来ません。此病氣の潜伏期は一日か二日の間で、初日から三十九度以上の高熱を發して、屢々嘔吐を催します。それから頭部と頸の周圍が甚く痛み出して、物を嚥下にも咽喉へ通らぬ位、舌は腫れ爛れて柘榴のやうになる。それから二日目になると頸、胸、手足等に粟粒のやうな赤色した發疹が生じて、遂には全身に蔓延つて、高熱の爲に死に至る事がある。然し手當が行届いて経過さへ良ければ、二週間位で快方に向ひます。そこで患者の取扱ひ方は、發病の當初から、發疹が治つて落屑の落るまで充分に隔離し、患者に觸れたものは、悉く消毒法を行ふやうに努め、病人は閑静で風通しの好い室に臥かせて、疼痛の劇しい時には頭部や頸部に氷囊又は濕布繙帯を施して、熱の去るやうにし、身體が痒くて耐らぬ時は、一日數回酢を塗つた方が宜い、又養生法は腸窒扶斯と

同じやうにして、全治するまで固つた食物を與へては可けません。此の病氣は動もすると質扶的里を併起したがるものですから、看護をなさる方は、注意の上にも注意をせねばなりません。

黒死病の媒介者と其症候

各種の傳染病中に黒死病ほど怖ろしいものはない事は何人も御存じでせう。之が傳染の仲介となるものは、同患者に觸れた物品や、蚤、鼠等が主なるもので、就中鼠は最もペスト菌に感染易いから、ペストの流行時に世人が鼠を怖れるのはそれが爲である。そこで人の身體にペスト菌の侵入する門口はいろ／＼ある。皮膚では大小の創口皮の剥げた所、皸、赤裂等、少しの傷から入り込む。又口から入るのは第一に肺や腸を冒し、其他眼や鼻孔から入ることもあります。感染つてから發病するまでの潜伏期は四日乃至一週間位で、その症状は微菌の浸入した部分によつて異ひます。皮膚の傷口からペスト菌の入つた時は、第一に腋の下か股の附根が腫れ上ると共に、

俄に疼み出して、熱は忽ち四十度前後に上る、そして食欲が止まり、脈搏が頻忙くなつて、次第々に衰へ、果ては精神に異状を來して二日か三日の中に落命する、醫師は之を腺ペストと云ひます。次に肺から病菌の入つた時の症候は、急性肺炎と同じやうに、急に咳嗽が劇しくなつて痰に血が交つて出る、之は肺ペストと稱して、前の腺ペストよりも遙かに性質が悪い。更に又胃腸から病毒を輸入したものは、先づ劇しい下痢を起して、發熱、頭痛等腺ペストのやうな工合になる。

黒死病の取扱と消毒法

ペスト流行の際に、若し脇の下や股の附根が腫れて急に熱が出たり、肺炎のやうになつたり、劇しい下痢を起したりしたならば、早速醫者に診て貰つて、萬一ペストの疑があつたら、速かに其筋の手續をうけて交通遮断を行ひ、家屋、器具、衣服等は嚴重なる消毒法を施さねばなりません。同時に家族や附近の者は健康診断を受け、豫防として血清注射をする必要があります。尤も患者が避病院へ送られて了へば、家族

の者の看護を要さないやうなものです。若し附添へとなつて行くとしたならば、看護人は豫め傳染する位の覺悟がなくては適ひません。そこで先づ豫防注射を受け、皮膚を損傷ないやうに全身に布を纏ひ、足袋、手套をはめ、口と鼻にはレスピレーターと稱する呼吸器をかけ、然る後、患者に接するのですが、成べく其咳嗽や呼吸のからぬやうに注意して、手を觸れたところは必ず消毒せねばなりません。而して患者が熱と頭痛に苦しむやうだつたら氷嚢を用ひ、且つ最初から赤酒、ブランデーの如き興奮性の飲料を與へて體力を保たしめ、次に患者の大小便、痰、唾、汗、鼻汁等を拭いたものは悉く燒棄するが、宜しい。

第五 傳染病諸般の心得

狂犬病の症状と取扱◎瘡痘の症状と扱ひ方◎發疹チフスの症状◎流行感冒の症候◎流行感冒と回復期の注意◎マラリアと看護法◎傳染病と清潔法◎隔離中の心得◎消毒法のいろく

狂犬病の症状と取扱ひ

以上は急性の傳染病について述べたので、これより以下は比較的緩慢に來る傳染病ですが、この狂犬病なるものは就中一番怖ろしい症です。之は讀んで字の如く、狂犬その他の獸類に咬まれて其毒の爲に起る病氣ですが、これに罹ると水其他の液體を見たと瘡癤を起すのが特徴ですから、一名恐水病とも申します。此病氣の潜伏期は早くて一ヶ月、長いものになると十年も二十年も前に、犬に咬まれたのが、突然發病して生命を失ふ事がある。最初は噛まれた傷所が疼いて痛み出すと同時に、精神が不快になつて頭痛、眩暈、嘔吐等を催して、夜は眠られず、物の響きや強い光に驚いて熱が出たり、悪寒が起つたりする、それから身體中の骨や關節が疼み、呼吸苦しくなつて、

咽喉が塞がるやうな氣持で食物が嚥下めないやうになる。腹が空つたり咽が渴いたりするので、何か飲食しやうと思つても水を見ると、ブルブルと身震ひして瘡癤了ふ。それから二三日すると熱が四十度以上に昇つて、脈は百二三十も搏ち、瘡癤が、屢々起つて、發狂のやうになる、すると又俄かに衰弱して瞳孔が非常に大きくなると共に、脈が糸のやうに弱くなつて口から泡を吹く、然うなると既う救からぬので、一日ともおかず死んで了ひます。そこで狂犬病の豫防法は、咬まれた時直に創口を硝酸銀で烙くか、又は醫師にかつて注射療法をして貰つて、疾ひを未然に防がねばなりません。尙ほ犬に咬まれた時の應急手當は、後の『救急療法』の項に詳しく述べてありますから、之と參照して頂きませう。

痘瘡の症状と扱ひ方

天然痘は種痘術が開けてから殆んど消滅したやうな形勢であるが、それでも時々流行する事がある。この病原は確と判らぬが、其傳染は前に述べた猩紅熱と同じやうな

關係で、皮膚の分泌物から感染するので、此の症状は傳染後十二三日の潜伏期を経て、突然悪寒や戦慄がすると共に、三十九度位の高熱が發します。而して非常に氣分が悪く、頭痛、腰痛、吐瀉氣を催して時々眩暈がする、それから二三日経つと一旦熱が下り、又少し昇熱つたかと思ふと、唇から頬の邊へボツ／＼粟粒のやうな赤い疹が出て、漸次身體中に殖えて來る、それが四日目になると水疱れのやうな工合になつて、六日目には膿を持つ、同時に體温が俄かに高くなつて苦しみ出す。で十日もすぎると膿泡が散つて痂皮が張る。そして十六日目から痂皮が脱れて、搔潰したあとが痘痕になるのです。

此病氣の取扱方は第一に隔離を嚴重にして患者に觸れた物品は、悉く消毒して、看護人はじめ、家内の者一同種痘をせねばならぬ。患者は成べく明い室に臥せ、絶えず合嗽をさせて口内を清潔にせしめ、熱が高くて頭痛のする時は氷嚢を當て、痒い時搔き潰すのを防ぐ爲に、布片に刺納林といふ藥をのばして全身にお貼りなさい。それ

から痂皮が脱れるやうになつたら、湯を使はせても宜しい。痘瘡の合併症として、動もすると肺炎、肋膜炎、腎臓炎等起すものですから、大に注意せねばなりません。

發疹チブスの症状

發疹チブスの病原は未だによく確められてないが、兎に角同患者に觸れた物品に微菌が附着して、それから傳染する事だけは疑ひない。通例十日の潜伏期を経て發病するもので、其容態は突然悪寒がして劇しく頭が痛み、體温は四十度内外に昇り三日乃至六日目位から、身體中に粟粒ほどの赤い疹が出る、それから二三日すると漸々膿をもつやうに腫れて、高熱は二週間以上も續く、其間は腸窒扶斯のやうに、精神が朦朧として時々嚙言を云ひます。そこで此の患者の看護法は腸窒扶斯と同一にして嚴重なる隔離、消毒、清涼、安靜、飲食等の注意が肝要です。

流行感冒の症候

感冒は四百四病の源と俗に申します通り、實際風邪ほどいろいろの病氣の仲介とな

るものは他にありません。その中にも流行感冒は最も危険な病気で、肺炎や肋膜炎は主にこれから起ります。そこで此病氣の原因は何であるかと云ふに、矢張り一種の微菌で、咳痰や唾液に交つて出たのが他人に傳染するのです。此の徴候は最初少しの熱發と共に、身體中がダルク、頭が重くなつて時々寒氣がしたり、眩暈がしたり、後には吐氣を催して腰や手足の關節が疼みます。此有様が二日ほど續くと三十九度から四十九度近い高熱が出て、身體がブルブルと慄ひ、方々の痛みが一層酷くなり、夜分など眠れないほど苦しくなります。次に加答兒性のインフルエンザと云ふのがあつて、之が一番多いやうです。其容態は鼻、咽喉、氣管支に急性の炎症を起すので、この場合には鼻が塞がつたり、水洩が垂れたりする、次に眼が赤く腫れて涙が出る、耳鳴りがする、咳嗽と痰が盛んに出て聲が嘎れ、頭痛がして食欲が進まなくなる有様は、一寸普通の感冒と區別出来ないやうな、場合もあるが、唯だ發熱の工合が異つて、急劇に昇る代りに永くは續かない。大抵二三日乃至四五日づゝ三十九度から四十度内外に上る

が降る事も亦早い。

流行感冒と回復期の注意

インフルエンザに罹らぬやうにするには、平生皮膚を強壯に鍊へておかねばならぬ。それには毎朝冷水摩擦をするのが一等で、次には消化の良い食物をとつて胃腸を害めぬやうの心懸けが肝腎です。然し一旦此病に罹つた時は早速醫師に診て貰ふと共に、他人に傳染らぬやうに、隔れた室へ臥かせて成べく談話を交へぬがよろしい。それから此病氣に最も大切な注意を要するのは、回復期に向つた時です。若し此の際に攝生を怠つて不消化物を食べたり、寒い風に當つたりすると、病氣が逆返すばかりでなく、更に腸室扶斯、肺炎、腎臓病、耳中炎等の餘病を惹起して、今度は容易に治りません。ですから全く癒くなつたと思つても、病床を離れてから十日間位は温かい室に閉籠つて、食物も柔かな物のみ控へ目にして居なければ可けない。ところが腸室扶斯の快復期と同じやうに、お腹が減つて堪らぬところから、患者は頻りに食べたがるものです。

そこで看護人の警戒を要する所で、病人が欲しがつても、決して固形物を與つては可
けません。回復後一週間の間は是非とも粥、鶏卵、牛乳のやうな液體を用ひさせ、外出
も成べく控へさせるやうにしたが宜しい。

マラリアと看護法

麻刺利亞は一名間歇熱とも云へば瘧ともいひます。之はマラリア菌といふ微菌が血
液中に入つて病氣となるのです。其病毒は重に濕地に發生して、最初蚊の體に附着し、
この蚊が人を咬すと病毒を傳へるので、更に患者の血を吸うた蚊が他人を刺して、傳
染の媒介をします。此病には突然起つて俄に惡寒がするかと思ふと、ガタ／＼慄
ひ出して坐る事も出来ない位になる。此時は既に三十九度か四十度近く熱が上つて、
頭が割れるやうに痛くなる、それから二三時間経つと前と反對に身體が灼けるやうに
熱くなつて、それが四五時間續くと、今度は熱が下つて元氣を回復して來る。此の症
状は隔日に發作するのもあれば、毎日時間を定めて起るものもある。

患者に對する看護法は、惡寒氣がして來たら、湯タンボや懷爐を抱かせて出來るだ
け温にして、熱がつた時は氷嚢その他の涼氣を加へて寒い位にしても良い。尤も此の
病氣は初期の内に規尼涅といふ特效藥を適宜に用ひれば、大抵兩三日で治るものです、
而して回復際には、前に述べたインフルエンザの手當と同じく、攝生に注意し、夕暮
などの寒い風に當ると直に再發するばかりでなく、此病氣が度重なる毎に性質が悪く
なつて、治り悪くなるものですから、癒り際が一入大切です。

傳染病は未だ此外に澤山ありますが、餘り類の少ない病氣は態と省き、實扶的、百
日咳、麻疹、風疹の如きは別項小兒病の部に入れ、肺炎、肺結核等は呼吸器病の部に
説明いたすことにして、更に傳染病に關する一般の心得を述べませう。

傳染病と清潔法

以上述べたやうに傳染病の原因は、總て不潔なる飲料、食物、被服、什器、咳痰、
唾液、糞便等から微菌が傳染するので、之を豫防せんとするには、先づ清潔を旨

とせねばならぬ。それには左の三ヶ條が最も肝腎な要件です。

- (一) 清潔法と各自の衛生
- (二) 傳染病患者の隔離法
- (三) 傳染病の消毒法

元來病氣の本原たる微菌は日光のよく透す、空氣の流通の良い清潔な所には永く生活する力のないものですが、之と反對に土地が濕つて、家の中が暗く穢ない時には、病菌は益々殖えるばかりです、だから常に室内を清潔にして、便所、下水、臺所、塵芥溜等の大掃除を行ひ、少しも汚物のないやうにして置くと、微菌は住みたくとも住みやうがありません、それと同時に各自の衛生が肝腎で、平生皮膚を鍛へ、胃腸を強壯にしておけば、大抵な病毒には打克つものです。之と反對に養生が行届かなくて、身體に故障があると、傳染病は得たりかしこしで浸入して参りますから、總て病毒の豫防は身體の健康が專一です。

隔離中の心得

黒死病、虎列刺、赤痢の如き急劇な傳染病ですと避病院へ送られるから、敢て素人の手を勞する必要はないが、腸室扶斯や痘瘡の如きは、自宅でも療養が出来るゆゑ一通り隔離法を心得ておかねばなりません。そこで患者の室は成べく家族の者の出入の遠い所を擇んで、病室には醫師看護人の、ほか一切人の出入を禁じ、病人の飲食その他に用ふる器具は、其都度熱湯の中へ潜らして清潔になし置き、手拭、手巾、敷物の如きは三十分以上曹達水の沸した中へ浸して洗濯を致し、便器には石炭酸水を盛つて病菌の消毒をすると共に、總て家族の用ふる器具と病室用の物とは嚴重に區別せねばなりません。而して病氣が快復するとか或は死亡した後には、患者の用ひた衣服寝具等は、成べく焼棄した方が安心です。又看護人は時々衣服を着換へるは勿論、手足、その他患者に觸れた所は一々消毒を行ひ、家族の者や小兒等には出来るだけ面接せぬやうに致し、已むを得ざる場合は身體全部に、消毒を施した後會ふやうにしたが宜し

い。

消毒法のいろいろ

消毒法は病菌の撲滅を圖るのが目的で、その方法は種々あります。焼却法、蒸氣消毒法、煮沸消毒法、藥物消毒法等が主なるものですが、此中何の方法を採るかといふ事は、時と場合と物品の如何によつて異はせねばなりません。

(一) 焼却法を、行ふべきものは糞便で汚れた寝具や布片、上敷等で、之は別に方法も何もない、唯だ焼棄すれば宜しいのです。

(二) 蒸氣消毒法 これは蒸氣機械とその設備がなければ一寸素人には出来ませんが、器械さへあれば實に完全無缺な消毒法です。革類、毛皮、護謄製品、漆器、飲食物等大抵な物は消毒出来ます。その熱度は攝氏の百度以上にして三十分程すれば、いかなる細菌でも死んで了ひます。

(三) 煮沸消毒法 之は何處の家でも出来る方法で、湯の中へ炭酸曹達を入れて十分

間ほど煮立てれば目的は達せられる、衣服、上敷布、蒲團の皮、陶器、硝子器、金屬その他外科器械の如きも之によつて消毒される。

(四) 藥物消毒法 之には種類が非常に多くありますが、主なるものは石灰乳、石炭酸水、昇汞水、フオルマリン、硫酸、その他いろいろあります。

未だこの外に日光消毒法、器械的消毒法等もありますが、それ等の事や消毒藥の調合法は醫師に聞いた上で爲さるが宜しい。

第六 呼吸器病の取扱

氣管支加答兒の豫防◎氣管支加答兒の看護◎喘息患者の取扱ひ◎加答兒性肺炎の手當◎急性肺炎の處置
 ◎肺結核の病原と症狀◎肺病看護上の忍耐◎肺病と消毒法◎肋膜炎の手當◎心臟病の取扱

氣管支加答兒の豫防

雪の澤山降る土地は却て左程でもありませんが、東京其他の如く雪の積らぬ所は、空氣が乾燥する上に、冬季は空つ風が強いから、其寒さを防がんに爲に、炭火をドン
 ドン燃す、すると、炭火から生ずる悪瓦斯を吸ひ込む、その爲に咽喉の粘膜を冒されて
 氣管支加答兒に罹るのです。その症狀は最初咽喉から氣管支内に痒いやうな痛いやう
 な感じを起し、續いて咳嗽や痰が頻りに出る、重いのは三十九度前後の熱が出て一方
 ならず苦しくなる、加之悪くすると肺炎、肋膜炎等に變ずる事があるから大に注意せ
 ねばなりません。そこで之を豫防するには、適當なる暖氣を保つて室内の空氣を乾燥
 せしめないやうに致し、衣食住に注意して、自然的の衛生法で豫防するの外はありま

せん。そこで適當なる暖氣の取り方とは如何、炬燵か、然らず、行火か、然らず、さ
 らばストーブか、之は或一部の家庭には行はれませうが、一般には其設備がない、然
 らば如何にせんか、曰く天然の炬燵をお用ひなさい。天然の炬燵とは身體に『適當な
 る食物』といふ燃料を入れて、之に『運動』と云ふ火を點けるのです。然うすれば体内
 は何時も温かくて、病氣は近づきません。

詳しく申せば冬期は成べく脂肪濃い滋養分を食べて、寒さを感じる毎に體操なり掃
 除なり大に運動すれば、如何に寒い時で汗が出る位暖かくなつて、病氣に冒される
 やうな事はない。然るに火鉢や炬燵にあたり詰めて居ると、有毒なる炭酸瓦斯を吸つ
 て身體は隋弱になり、其舉句に外の寒い風に觸れると忽ち氣管支加答兒の如きに犯さ
 れるのです。併し老人や小兒は健康者の真似は出来ないから、柔かな衣服を温かく襲
 ねて、晝夜ともに湯タンボを利用した方が可い。若又火鉢を置く時であつたら、時々
 戸を開いて換氣を行ひ、火には鐵瓶をかけて湯氣の爲に空氣の乾燥を防ぐのが肝腎で

す。然し炭の火は成べくなら近づけぬに越した事はない。

氣管支加答兒の看護

右のやうに注意して 居つても尚ほ氣管支炎を發した場合には、先づ室内の溫度を華氏の六十度位にして、患者には屢々吸入法を施し、胸部に濕布縋帶（後の醫師の手助け参照）をさせて、醫師の投薬と相俟たねばなりません。而して食物は粥か鶏卵のやうな消化の良いものを選んで、間食を禁じ、熱のために咽喉の渴いた時は葡萄酒を薄めて少しづつ服ませ、冷たい空氣を吸はせぬやうに、注意し、若し又急に暖氣を取らねばならぬ必要があつて、炬燵を用ひる場合には、炭が赤く燃つて全く黒い處のなくなつたものを入れるやうになさい。さうすれば酸化炭素の有毒なる瓦斯が大に減じます。而して病氣がすつかり快くなつたと思つても、一兩日間は外の空氣に觸れては可けません。萬一外出する時は、頸部に真綿のやうな温い物をシツカリ巻いて、寒氣を防ぐやうにしないと、直ぐ又逆返して今度は餘病を併發しますから、快復期の注意

は一層肝腎です。次に慢性氣管支加答兒でも、咽頭加答兒でも、矢張り右と同一な攝生と看護とが必要です。

喘息患者の取扱ひ

喘息は遺傳性もあれば、他人の咳痰から傳染するものもある。そして之は時を隔て、發作する病で、その起る時は急に呼吸が困難になつて、息を吸ふ毎にピークと細い笛のやうな音を發して、見るから苦しうなものです。劇しくなると顔色が眞蒼になつて、脈が微弱になると共に、痙攣を起す人もある。そこで此の痼疾のある人は、大抵その以前から鼻の病か咽頭病を有するものですから、平日に於てその根本治療を受けなければなりません。又發作時には、窓や戸障子を開放して新鮮なる空氣を流通せしめ、精神を刺激する事や、身體を動かす事は止めなければならぬ。そして胸部に芥子泥を貼つて、湯を使はせると幾分症狀が軽くなります。然し此病氣は俄に治るものではないから、温かい土地へ轉地して氣永に保養するのほか、醫師の方でも之に對する特效薬

とてはありませぬ。患者の吐いた咳痰は他へ散らぬやうにして、傳染を豫防せねばなりません。

加答兒性肺炎の手當

加答兒性肺炎は氣管支加答兒の劇くなつた爲に起るものです。其容態は呼吸使ひが忙しくなつて、息を吸ふ時は非常に苦しく、咳嗽が頻りに出て熱は三十九度以上に昇ります。随つて食慾が止ると共に頭痛がする、胸部が痛くなる、劇いになると心臓麻痺又は窒息して、急に死ぬ事がある。

患者の取扱ひ方は、急性氣管支加答兒の時と略ぼ同じやうな注意をもつて、而も前者よりも更に一危険なる事を慮つて、一寸の油断もなく看護せねばならぬ。殊に老人や小兒は僅か二三時の間に、呼吸困難に陥つて危篤を告げる事がある。ですから若し脈の数が忙しく微弱になり、顔色が蒼くなつて窒息の徴候が見えたら、直ぐ醫師に來て貰つて應急の手當をせねばなりません。

急性肺炎の處置

此の症は一名コラツプ肺炎と云つて、在來息災であつた人が急に發病するのです。その容態は最初惡寒、戰慄と共に頭痛がして、熱は忽ち四十度にも上り、片胸に疼痛を覺え、呼吸が迫つて咳嗽が頻りに出る、そして二日目位から痰に血が交り、脈の數が増して弱くなり。甚だしいのは心臓麻痺を起してその儘絶命するものもある。然し病の質が良くて手當さへ行届けば、四十度以上の高熱が一週間ほど續いた後に、大便の通じと發汗とによつて、恢復に向ふものもある。そこで此の取扱ひ方は、頭痛がしたら氷嚢を當て、便秘の時には灌腸を施し、氣力と心臓の力を衰ひさせぬ爲に葡萄酒、ブレンダーの如き興奮性の飲料を最初から與へ、その他は前記各種の熱病や、氣管支加答兒の時に於ける看護法を參酌して、相當の注意が肝要です。

肺結核の病原と症狀

肺結核は虎列刺や赤痢の如く、短日月の間に傳染するものではない、けれど其代り

此病氣の爲に日々夜々、幾干の人命が奪ひ去らるゝか數知れませんが、之が病原は患者の咳痰中に生息してゐる結核桿菌と稱する一種の微菌が、咳痰と共に外へ飛出して、他人に傳染するのです。虎列刺や赤痢の微菌は人體を離れると大抵は死んで了ふけれど、結核桿菌は何時までも死なずに患者の觸れた器物、衣服、寢具等に附着してゐて、一朝機會があると人の呼吸器に浸入して、繁殖を逞うするので、けれども此桿菌が人體に入つたからとて、必ずしも發病するとは限らぬ。呼吸器さへ健全無疵なら、桿菌が浸入しても寄せつけずに却て追ひ出して了ふから、強壯な人は容易に傳染いたしません。

肺結核の徴候はどうかと申すに、最初消化不良、全身衰弱、不規則な發熱等を以て起る事もあれば、突然咯血を以て始まるものもある。何方にしても一旦發病すれば必ず咳嗽に伴うて、痰に多少の血が見える、而して呼吸が迫り熱が出て食欲進まず、面色は次第に蒼白くなつて皮膚が乾燥し、更に精神が沈滞したり又は大に興奮したりする。

病中最も看護人を驚かすのは、時々起る不意の咯血と高度の發熱です。

肺結核看護上の忍耐

多くの人は醫師から肺結核だと診斷されると、死の宣告でも受けたかの如く失望落膽するものでありますが、之は甚だしい誤解で、此病氣に罹つても、療養と手當さへ良ければ治らぬといふ道理はない。現に全快して六十七十の高齡を保つてゐる人は澤山あります。唯だ悲しい事には、今日未だその特效薬が發見されて居ませんから、永い年月の間患者自身の攝生と、看護人の忍耐とが最も必要であります。そこで氣候や空氣の關係が甚だ大切ですから、出來得べくんば、鎌倉とか熱海のやうな温い海濱へ轉地するに越した事はないが、家計の都合上その出來ない人は自宅療法でも、左して、不都合はなからうと存じます。それにしても何よりも肝腎なのは看護人の注意で、若し其處置が悪い爲に、病人を怒らせたり、悲しませたりするやうな事があると忽ち神經が掻き亂れて食欲が減退すると共に、胃腸の消化力を害して病が重なるもので

家庭看護法

すから、看護人は他の傳染病を取扱ふよりも一層綿密な注意を以て、患者を療り慰めねばなりません。

肺病と消毒法

先づ看護する人は患者に對して心からの同情を表し、丁寧深切に之を扱ひ、又よく常識を備へて患者の氣を平靜に保たせ、衣服その他は清潔を旨として、常に美といふ觀念を忘れぬやうにしたいものです。ツマリ看病人の清潔と美によつて、患者の心を快活に晴々しくさせる一助と爲すのであります。

之に次いで消毒ですが、肺病は世間の人の思ふ如く再う容易に傳染するものではありません。最も傳染の虞れがあるのは患者の吐出す痰であつて、此中には無数の結核菌が居るけれど、呼吸する息の中には居ませんから、此痰さへ注意すれば、傳染の憂ひは殆んどありません。そんなら此痰は如何に處置すべきかと申すに、之は痰壺を備へておいて必ずその中へ吐かせる事、但し痰壺は成べく小く、持はこびに都合の

良いやうにし、それに水を半分ほど入れて置いて、掃除の際痰の粘らぬやうに致し、壺は毎日二回以上洗つて其都度昇永水で消毒する事を忘れてはなりません。又痰の棄所は河か溝に限ります。

肋膜炎の手當

肋膜炎の症状は、初め多くは片胸の刺すが如き疼痛、呼吸困難、咳嗽等を以て發病します。随つて深く呼吸をする事が出来なくなつて、三十八度位の熱が出る、之には胸の疼みの輕いのもありますが、又非常に強いのもあつて患部を下にして臥せられぬ事があります。扱又患者の取扱ひ方は、輕症であつても温い、室へ靜かに臥かせ、疼痛部へは醫師の命によつて、沃度丁幾や芥子泥、發胞膏等を貼り、時としては胸から背中へかけて濕布繃帶を行ひ、飲料には牛乳が適します。それから疼みが非常に劇しかつたら、フランネルか毛糸の編物のやうな彈力のある布片で、胸の全部を包み縛るのです。それによつて稍や樂になります。次に快復期の注意ですが、肋膜炎は往々肺

家庭看護法

結核を續發し易いものですから、快復際に向つたら、成べく温かな地方へ轉地せしめ、感冒その他の豫防に注意すると共に、食物は滋養分を擇んで、食慾が進んでも、決して俄かに澤山與つてはなりません。若し最初から結核性の疑ひがあつた時は、益々攝生に氣をつけねばなりません。

心臓病の取扱ひ

心臓病は呼吸器の部ではありませんが、便宜上茲に記入して置きます。此の病氣の症状は最初心臓の動悸が強くなつて、呼吸が忙しくなる、殊に運動でもするとそれが劇しくなつて脚が浮腫て來ます、更に酷くなると頭痛、消化不良、眩暈等に次いで心臓部が肥大して疼痛を覺える、尤も氣力が衰へぬ中は格別の變動はありませんけれど、一度氣力が衰へて身體の筋が弛み出すと、症状が俄かに一變して、下肢は勿論、下腹から顔面まで浮腫が來て、小便の量が減じ、心悸は盛んに烈しく胸部が一體に苦しくなる、果ては鼻尖、唇、頬、指端等に血液が滯つて斑に紫色を呈する、然うなつて

は甚だ危険の徴候ですから、油斷しては可けません。

されば心臓病患者は、餘り重くならぬ中に職業にたづさはる事を止して、勞働を避け、情慾を慎み、飲酒、葷、その他濃厚なる茶、コーヒ、胡椒、蕃菽等凡て刺激性の物を禁じて、成べく消化の良い滋養分、殊に牛乳を與へて便通を圖ると同時に、適度の運動が肝腎です。又心悸亢進の甚しい時は、心臓部に氷嚢を貼して安靜に臥せておかねばならぬ。それから冷水浴、海水浴、熱湯等は避けて、湯を使はせるなら微温湯に限ります。

第七 胃腸病と看護法

急性胃加答兒の手當◎慢性胃加答兒の取扱◎胃潰瘍と胃癌◎胃痙攣と胃擴張◎腸加答兒の原因と症状◎腸加答兒の手當◎盲腸と腸結核◎腹膜炎の取扱◎十二指腸癌の手當

急性胃加答兒の手當

感冒又は食物の不消化等から、夏分主に罹り易い病は此の急性胃加答兒です。その症状は俄かに氣持が悪くなつて、嘔吐、胃痛を起し、或は漸次食慾が缺乏して、發熱と共に非常に身體が疲れます。

患者の扱いは静かに臥せて、腹部の冷えないやうに温かく包み、寒い時でしたら湯タンボを入れ、食物は固い物を嚴禁して粥、お湯、牛乳、生鶏卵のやうな流動物を與へ、若し胃の中に不消化物が滯つてゐるやうな疑ひがあつたら、下劑をかけ、又甚だしく疲勞の見えた時は純良な葡萄酒に水を割つて飲ませてもよろしい。

慢性胃加答兒の取扱

慢性の胃加答兒は、第一に食物の不養生が原因で、其他は貧血病、呼吸器病、心臟病等から續發するものです。その症状は食慾が減つて、胃腑が壓付けられるやうに重くなると同時に、胸元が膨脹して時々胃が痛みます。而して精神が不快で往々不眠症に陥り、頭痛、便秘に次いで嘔吐を催します。

此の患者を扱ふには先づ原因療法が最も大切で、醫師の命令を嚴重に守らせ、暴飲、暴食を禁じ、不消化の食物を避けて、消化の良い物のみを選択し、勿論ですが、その食物は一々醫師の指圖に隨つて、分量や時間を正しく守り、間食は素より茶や湯の如きでも矢鱈に與へぬやうにして、適宜の運動をすゝめねばなりません。

胃潰瘍と胃癌

胃潰瘍は男子よりも婦人に多い病氣です。原因は矢張り食物の不攝生から起るのですが、其容態は食物の消化が悪いといふの外、別に烈しい苦痛はありません、唯だ食後一二時間ほど經つと、胃から背中の方へかけてチク／＼疼みがり、便秘し易く、

時には血を吐く事もあります。

此患者の扱ひ方は常に身體を安静にして。吐血の際は静臥を命じ、氷嚢を用ひて二三日の間は口から食物を與へる事を全廢し、その代り滋養物を洗腸して營養分をとらせるやうにしたが宜しい。吐血のない時でも酸い物や辛い飲食を禁じて、牛乳、卵、粥の如き物に限らねばなりません。

次に胃癌は大抵四十歳以上の人に起る病氣で、不治の症と稱されてをりますが、攝生さへ良ければ治らぬ事はありません。此症候は消化不良に伴うて身體が衰へ、折々胃が疼んでドス黒い血を吐く事がある。そこで此患者に與ふる食物は、滋養分に富む肉食よりも却て野菜その他の澱粉性のものが宜しい、便秘の際は洗腸を施して通じをよくし、疼痛時は温罨法の代りに、蒟蒻を熱く茹で、抱かせると苦痛が薄らぎます。

胃癌と胃擴張

胃癌は平常少しも異状がなくて、突然胃痛を起す病で、其原因は食物の不攝生と過度の心配から起るのが多い、發作する時は胃が擗るやうに痛んで、手足は氷の如く冷え、冷汗が流れて、苦痛の餘り人事不省になる事がある。之が發作時の手當は全身を温かく包んで胃部に芥子泥を貼るに限ります。それでも疼みが止まなかつたら、醫師に乞うてモルヒネ注射を受けるの外はありません。

胃擴張は暴飲暴食の結果か、又は他の胃病と共に併發するものです。その症候は胃腑が非常に擴張して、甚だしいのになると下腹まで膨脹するのである。常に消化不良、精神沈鬱等に次いで、屢々多量の嘔吐があります。この取扱ひは水分の乏しい食物を與へ、便通を利くして胃の洗滌を行はねばなりません。洗滌液は食鹽水か又は過満俺酸加里水といふのですが、之は醫師の命によらねばならぬ、それから渴を訴へても、請ふがまゝに水をやつては可けません。飲めば飲むほど嘔吐の材料を増すばかりですから注意が肝要です。

腸加答兒の原因と症状

急性の腸加答兒は熟さない果物を喰べたり、性質の悪い物を飲食したり、又は大食したり、中毒したり、大火傷をしたりした時に起るものですが、時としては、感冒、腹膜炎や蛔虫などの爲に起つたり、傳染病を患つた後に續いて起る事があります。殊に小兒は刺戟を受け易いので、食物の善い悪いを見分けることが出来ぬため、よく飲食物から此病氣に罹ります。又慢性腸加答兒は、急性が治りこじれて起る事もあります。すし、鬱血し易い病氣のために起る事もあり、或は酒を飲みすぎた爲に原因するものもあります。

急性の方ですと、大抵腹が痛んで下痢をします。便の中には粘液と消化しない食物の片が混つてをります。そして尿の分量は減り、腹は筋張るやうになつて、頭痛が致します。慢性の方は、便秘と下痢とが不規則であつて。酷く衰弱します。大人は殆んど癒りますが子供は動もすると、生命を失ふ事がありますから注意せねばなりません。

腸加答兒の手當

總じて腸加答兒で下痢をした時には、靜かに臥かせて下腹に温罨法をさせる事が專一です。飲食物が原因であると判つたならば、リチネ油二十瓦を冷たいお茶に浮かして飲ませ、腸の中に滯つてゐる不良の物を排泄させるのです。又咽喉の渴きを止める爲には鹽酸リモナーデ(製法後にあり)を少しづつ與へることになさい。發病の第一日目には少しも食物をやつては可けません。二日目からはお湯、牛乳、スープ位、それからお粥に梅干、鶏卵の半熟に刺身などを漸次に食べさせるやうに致します。然し病ひの輕重によつて、流動體の食物も一日か二日食べさせれば宜いのもあれば、一週間も十日も續けねばならぬのもありますから、此點は醫師にお尋ねなさい。そして流動物を食べてゐる間は是非看護人は附き切りでなければなりません。頭痛がしたならば服薬は一切用ひず、氷囊でお冷しなさい。若し又胃加答兒もあつて、嘔吐するやうな事があつたならば、胸に氷囊をあてるか、氷の破片を少しづつ食べさせるがよろし

い。前に述べた鹽酸リモナーデの作り方は左の割合にします。

稀鹽酸 一グラム。 單舎 十グラム

水 二百グラム。

右の如く拵へておいて、渴を告げる毎に少し宛お與りなさい。

盲腸炎と腸結核

盲腸炎は突然右方の腸が疼くなつて、其部が硬く石のやうになります。熱は三十八度以上四十度位までの間を往來して、屢々嘔吐を催します。此病は手當さへ宜しければ、一遍で根治しますが、然うでない度々罹るものです。取扱ひ方は重い輕いに關はず、全く静臥せしめて、患部には氷嚢をあて、若しそれでも疼痛が劇しかつたら、水蛭を十數匹つけて血を吸はせると、必ず苦痛が薄らぎます。食物は流動體の物に限つて、快復後も嚴しく攝生を守り、病の再發せぬやうに注意せねばなりません。次に腸結核は大抵肺結核に續いて起るもので、頑固な下痢と共に腸が疼んで膨れま

す。熱は三十八度から九度の間を上下して、漸次衰弱するばかりです、そして之は不治の病氣ですから、癒すといふ事よりも患者の苦痛を輕くするのが主眼です。されば腹部には温濕法、或は濕布繃帯を施し、食物は消化し易い流動物に限りますが、牛乳をついけると其爲に下痢を増す事があるから、其場合には一時牛乳を止めて鶏卵の黄味をお上げなさい。又咯痰その他の消毒法は、肺結核の時と同じやうな手當が必要で

腹膜炎の取扱ひ

急性腹膜炎の原因は、大負傷又は腸室扶斯、赤痢、胃潰瘍、盲腸炎、肋膜炎、生殖器病等に續いて起る病氣です。その症狀は體温が漸次に上り、脈搏は弱くして數多く、腹部の膨脹に伴うて腹痛、嘔吐が起り、顔色は瘦せ衰へて病勢が募れば、心臟麻痺によつて落命する事がある、患者は仰向けに臥せ、腹部を氷嚢で冷す。又は濕布繃帯を施し、嘔吐を止めるには氷の破片を含ませ、葡萄酒、ブランデー等を少量づゝ最初か

家庭看護法

ら與へ、營養物としては牛乳、生鶏卵、お湯、スープの如き流動物に限りませぬ。
慢性腹膜炎は、結核性のものが多しから之は急性よりも危険です。そこで此の取扱ひ方は、飲食其他の急性の時と略ぼ同じでよろしいが、唯だ温暖の地方へ轉地して、清新なる空氣療法が肝腎です。養生が悪くて強い感冒に罹ると、肺結核を併發して、到底助からの事になるから、看護人は油断なく注意して醫師の命令を履行させねばなりません。

十二指腸蟲の手當

此病氣は氣候の非常に暑い所や、濕氣の多い土地に罹り易いものです。旅行などをして咽喉を渴いたりすると、ツヒ其處等にある汚水を飲むやうな事がありますが、この汚水の中には大抵十二指腸蟲はじめ、その他の病菌がをりますから直ぐ十二指腸蟲に取つかれます。又普通の家庭でも夏分は飲料水に氣をつけぬと、同様の病氣を招きます。

此の病に罹ると先づ頭痛や耳鳴りがして動悸が高くなる。之はツマリ汚水の中にある十二指腸蟲が胃から腸へ行き、腸に繁殖して害をしたのであります。腸の健かな人ですと、蟲が浸入しても大便と共に直ぐ逐出されて了ひますが、弱い人は忽ち蟲の爲に犯されて、全身に貧血を起したり衰弱したりするのです。其際は早速醫師にかつて驅蟲劑を服まねばなりません。又此の病氣は黃膽といふ病氣が一緒に起ることがあつて、顔色が黄色くなります。之は決して治らぬ病氣ではないが、手當が行届かぬと貧血の爲に命を失ふ事がありますから、必ず醫師に診て貰つて大便を検査する必要があります。あります。「綿馬」といふ薬はこの病氣に大層利くさうですが、眼が悪くなるといふので、醫師仲間では餘り費用せぬやうです。そこでナフタリンと稱する石油臭い薬を呉れることがあります。之は非常に良く利く薬ですから、臭くとも忍んで服まねばなりません。又蟲の下つて了はない中は成べく食物を減じて、ヨシ食べるにしても脂肪濃い物や、餘り滋養に富んだものは却て宜しくない。先づ粥と梅干位に限つて、それ

も平生の三分一以上食べてはなりません。

第八 脳神経諸病の手當

神經病の原因◎神經病の攝生法◎神經病と看護法◎頭痛患者の取扱ひ◎腦出血の手當

神經病の原因

神經病又は神經衰弱症の原因は二種あります、一は先天性、即ち父祖の遺傳から來ると、一は後天性、自己の境遇や不攝生から起ると、恚う二通りある。先天性のものは祖先からの遺傳で、祖父が精神病者であつたとか、父が大飲酒であつたとか、又は母がヒステリーであつたとか云ふやうに、生れぬ前からの血統をひくのですから、之は本人の罪ではない。次に後天性の神經病は、心身を過度に勞すること、不攝生とによつて起るのである。主に試験前の學生、相場師、銀行家、文士數學家等の頭腦を勞する人に多い。又勞働者では印刷職工、電話交換手、電車の運轉手等の如き劇職にある者が多数です。それから自己の不攝生から起るのは飲酒、喫煙、生殖器障害、手淫、房事過度、鼻の病、睡眠不足、過度の心配、不規則の生活等が主なる原因で、偶には

負傷、外科手術の後、熱病、傳染病等から神経病になるものもあります。而して先天性の遺傳から來たのは容易に治り悪いが、後天性のものは攝生と手當の如何によつて存外たやすく癒るものです。

神経病の攝生法

神経病及び神経衰弱の攝生は、その先天性と後天性とを問はず、先づ過度の心配と劇しい労働と避けて、生活を規律正しくせねばなりません。一日中で爲すべき仕事を略ぼ時間で定めて眞面目に、それを守り、無理な事をしたり憎けたりするのは大禁物です、殊に必要なのは睡眠時間を守ることで、七時間乃至八時間の睡眠が普通ですから、其範圍内にて何時に寝て何時に起るかを一定しておくが宜しい。而して成べくは夜早く寝て朝は早起すること。夜更しの朝寝坊は何よりも有害です。次には一定の仕事をしたら、時々身體と精神とを休める事が必要で、例は三時間仕事をしたら三十分休むとか、半日働いたら二時間休むとか云ふ風に身心の休息を圖らねばなりません。

それから適度の運動をして食物に注意することです。

胃病と神経の諸病とは最も關係の深いもので、胃弱の爲に始終頭が痛くてならぬとの事は往々聞くところでありませす。ですから暴飲暴食を慎んで間食は厳しく禁じて、胃を健全にせねばなりません。更に大切な事は情慾を抑へる事で、殊に年頃の青年男女には一層色情の注意が肝要です。

神経病と看護法

總て脳神経に異状のある人は、精神變動が劇しくて、少しの事でも怒つたり笑つたり泣いたり、悲しんだりするものですから、之を取扱ふには一通りの骨折ではありませぬ。第一に察しがよくて氣轉を利かせ、患者がひと云つたら十を覺る位でなくては可けません。随つて病人の氣に逆ふやうな事があつてはならぬが、然し餘り我儘を通させると却て病が募る事があるから、其邊は臨機應變で、精神の安靜を保たせるやうにするのが專一です。食物は酒や葷を嚴禁し、時々西洋按摩や電氣療法を施してやる

必要があります。次には睡眠の注意ですが、之は就寝前一時間位は、患者の氣に入るやうな快談をして心を和げさせ、熟睡を圖るやうに致し、又青年男女であつたならば如何はしい小説や卑猥の談話を避けしめて、妄想を絶たしめねばならぬ。成べくならば閑静な土地へ轉地して、俗用との關係を避け、靜かに心身を養はせたがよい、そして冷水摩擦、深呼吸等は最も効があります。

頭痛患者の取扱ひ

頭痛はいろくの熱病、酒、糞の中毒、腦病その他内臓病、便秘、精神過勞等から起るもので。痛む場所は一定しないが。神經質の人には時間を定めて發作がある。患者の取扱ひ方はその原因によつて異ひます。熱病から起つたものは頭を氷で冷やし、腦貧血から來た時は之と反對に身體を温かくし、中毒、胃病、子宮病、鼻の病等から起つたものは、先づその原病を治療せねばならぬ、便秘によるものは下劑をかけるか、洗腸を施すかする。又精神過勞の頭痛は、心を休めて適度の運動、冷水摩擦等が有

効です。

次に偏頭痛と云つて頭の半側だけ疼むのがある、之は發作する前に眼先に火の粉のやうなものが散らつて、頭が熱くなつたり、冷くなつたりする、同時に強い光りや物の響きや談話を嫌ふやうになり、屢々嘔吐を催します。この看護法は稍や薄闇い室へ靜かに臥かせて、脚を温めてやり、飲料として牛乳、茶コーヒ等がよろしい。この持病のある人は平生でも過度の勞働や心配を避け、酒を慎んで冷水摩擦を勵行し、成べくならば、空氣の清新なる海濱にでも轉地するに如くものはない。

腦出血の手當

腦出血は俗に卒中と稱して、五十歳以上の老人、殊に飲酒家の肥つた人に多い病です。これぞと云ふ前兆もなし、突然卒倒して人事不省に陥り、脈搏は強くして數が減り、大脈をかく事がある、幸に正氣づいて眼が醒めても其時は既う左右何れかの半身が痲痺して了つてゐる。それから後は治療と手當の方法さへ宜しきを得れば、輕快

くなる事もあるけれど、少し油断すると益々悪くなつて、二三次倒れが續いて死に至ります。

此の患者を看護するには、發作と同時に肩から上の方を高く枕して臥させ、出血ありと思はるゝ頭部に氷嚢を貼て、洗腸を行ひ、便秘した時は下劑を投じます。食物は牛乳、お粥、粥、生卵の如き流動物を與へて消化力を補け、若し又口から物が食べられぬ時は、滋養洗腸を施さねばなりません。此病の豫防として、遺傳ある者は酒を禁じ、肥満を防ぎ、心身の過勞を避けて、餘り熱い湯に入らぬやうに注意せねばならぬ。

第九 脚氣と儂麻質斯

脚氣患者の取扱ひ◎關節炎の手當

脚氣の原因は未だに確と判りませんが、之に罹るのは主に十四五歳から、三十歳の青年で、夏から秋にかけて最も流行します。その症状は始め身體の關節が倦くて、疲れ易くなる、それから食欲衰へ、便秘或は下痢を起します。それが稍や進むと下肢に浮腫が來たり、反對に萎瘦たり、心氣亢進して手や脚が麻痺て來る。又衝心性の脚氣は頗る危険なもので、初めから心臟が疼んで動悸が甚だしく、或は急に心臟病と同じ容態で、脈搏が忙しく、呼吸が迫つて、嘔吐、咳嗽、しやくり等に續いて、心臟麻痺が起つて死に至る事があるから、一寸の油断もありません。

脚氣は胃腸の弱い人にとつて最も怖ろしい危険症ですから、平生胃腸を強壯ならしむる事に努め、不消化物を禁じて便通を良くし、適宜の運動を奨励するに限ります。若し萬一脚氣に罹つた時は、一刻も早く轉地させるか、又は身心を勞する事を止めて、

重症ならば飯の代りに牛乳を用ひ、軽症ならば軟かな麥飯をお與りなさい。そして心悸亢進に苦しむ時は、心臓部を氷嚢で冷やして静臥せしめ、殊に神経をおこさぬやう、精神の和ぐやうにと慰め諭す事が肝要です。若し呼吸が迫つて嘔吐氣が起り、脈搏が忙しくなつて顔色でも變るやうだつたら、直に醫師の許へ急報せねばならぬ、之は大抵衝心の兆候ですから、一寸でも後れては取返しつかぬ事になります。軽症ですと快復後は心配もないけれど重症後は、貧血の爲に腦が悪くなるものですから、一時全く境遇を轉ずる爲に、海濱なり山間なりへ轉地せしめて、滋養分を以て氣永く健康を恢復するやうに心懸けるのが專一です。

關節炎の手當

これには急性關節炎と慢性關節炎とあつて、何れも少壯の年若い人が多く罹ります。初め三十八度位の發熱で手か足の關節が疼み出し、二日ほどすると其處へ熱をもつて赤く腫れます、それから漸次身體中の關節を浸して、患者は頻りに汗をかき、疼痛の

爲めに夜は眠られず、その苦しみ方は非常なものです、若し熱が四十二度に上つたら危険な症候ですから、萬一を警戒せねばなりません。看護法は患者の身體を温かに包み、病室内は常に乾燥せしめて一定の暖氣を保つやうにして冷氣の浸入や隙間の風を避け、又患部は綿を以て保護繃帯をするか、或は藥物を塗布して繃帯する必要がある、足肢を高く擧げさせるのは痛みを鎮める爲には良いが、熱が高く、心悸の亢進した場合にはよろしくないから、脚を平にして、心臓部に氷嚢をお當てなさい。食物は牛乳を最良とし、次には粥、スープ、生卵等成べく柔かくて消化の良い物を選ばねばなりません。この病は再發し易い上に動もすれば心臓病を續發するものですから、快復なつてからも、暫く身心を安靜にして、濕氣を防ぎ且つ感冒をひかぬやうに要心專一です。

次に慢性關節炎は、急性のこじれたもので矢張り身體中の諸關節が疼み、五年も七年も治らぬものです。患者の取扱ひは急性と同じやうなものです、之に最も有効な

八四
のは温泉療法です。又佝僂質斯も右と大同小異の病氣ですから、手當や看護等も亦同様で差支へありません。

第十 小兒病と母の心得

實扶的里の原因と症状◎實扶的里の手當と看護◎小兒肺炎の容態◎小兒肺炎の看護法◎百日咳の手當◎麻疹の症状と経過◎麻疹と看護の注意◎小兒と下痢の手當◎小兒腹痛の手當◎小兒感冒時の心得◎腦膜炎の症状◎腦膜炎の應急處置◎小兒癲癇の心得◎夜驚症と母の心得

實扶的里の原因と症状

凡そ小兒病の中で實扶的里ほど危険な傳染病はありません。この病の原はデブテリ菌といふ微菌が、患者の痰や唾液の中に澤山潜んでゐて、咳嗽をしたり喋舌つたりする毎に、それが霧の如く外部へ飛散ります。他の人が其デブテリ菌の混つた空気を吸うたり、患者の觸れた玩具などを舐めたりして傳染するのです。此病氣の症候は二日乃至五日の潜伏期を経て起るので、先づ發熱と共に小兒の機嫌が悪くなつて頻りにムツがる。口の利ける小供ですと、頭痛がするとか頸部が痛むとか訴へます。此時口中を開けさせると、奥の方が赤く充血して咽喉一面に灰色の膜が張つてゐます。

その膜が次第に厚くなつて、遂には咽喉の中から、鼻腔の方まで蔓延致します。すると小児の呼吸が悪臭なつて、腮の邊が腫れると同時に、元氣が衰へて脈が忙しくなる。チブテリ菌が鼻腔内を胃しますと、血膿のやうな涕が出る、更に咽喉へ蔓延ると、犬の遠吠えのやうな咳嗽をして、息を吸ふ毎に妙な音がする、音聲も無論噎れます。而して咽喉の口が狭められると、呼吸が困難になつて其爲に窒息する事がある。又咽喉を浸されないまでも、病毒の爲に心臟の作用が弱つて血液が滯ると、それ切り往生するものもある。

實扶的里の手當と看護

若し不幸にしてチブテリ患者が発生した時は、速かに別室へ隔離し、健康な小児には豫防注射を行つて、成べくなら親戚か知己の家へ預け、大人も毎日健康診断を受けると共にコロール鐵液水で合嗽をします。そして患者に接した凡ての衣類器具等は、病毒附着の懼れがあるから、一々之を消毒し、又病人の息や唾液を蒙むらぬやう

に注意して、屢々顔を洗ひ、食事の時は殊に手を消毒する事を忘れてはなりません。次に病室内は温かくして濕潤を保たせ、飲料はリモナーデに赤酒を加へて與へ、食物としては軟かな肉類、生卵、粥、お湯、牛乳、水飴等を選び、咽口が狭くなつて嘔下すに困難するやうでしたら、滋養浣腸をした方が宜しい。

實扶的里は素より危険な傳染病には相違ないが、發病の當時に血清療法を行へば、確かに全治いたします、然し手後れになつては救かりませんから、實扶的里流行の際、小児に右の如き症状が見えたら、直に醫師の診断を受けて、注射療法をするのが專一です。又此病氣は往々心臟麻痺、氣管支肺炎、腎臟炎等を併發するものですから、快復際の養生が一番大切でです。

小兒肺炎の容態

肺炎と云つても加答兒性、急性の二種ある事は前にも述べた通りですが、小兒は大人と少々容態が異ひます、加答兒性肺炎の時は小兒の顔色が漸々に悪くなつて、呼吸

使が忙しくなり、咳嗽が頻りに出て晝夜ともに安眠しないやうになり、乳も哺まなくなる、それがいよゝ劇しくなると、手足の指や唇が紫色に變じて遂には心臟麻痺の爲に死ぬ事がある。次に急性肺炎の症候は、俄に高熱を起して悪寒がすると共に、ガタ／＼慄ひ出し、四十度以上の熱が出る。往々痙攣する事がある、咳嗽や呼吸使ひの忙しいことは加答兒性よりも一層甚しい。熱の下り方は加答兒性ですと、三十九度から八度五分八度、七度五分といふ工合に段々と下るが、急性は之に反して通じがつくと同時に、四十度から急に三十七度位に下る、一般の症候は急に起つて急に治くなると云ふ風である。凡て肺炎は早く手當さへすれだ大抵癒るものですが、手後れになつては取返しがつきません。

小兒肺炎の看護法

加答兒性でも急性でも同じことですが、之に罹つたら先づ静かで温かな室に臥かせます。看護上の注意は、急性ですと病の局所が廣いから、胸を軽く冷すのも宜しいが、

加答兒性のものは決して冷してはなりません然し熱のある際に頭部を冷すのは何方でも差支へはない。又加答兒性の肺炎には温濕布を上手にやれば、咳嗽を和げ、安眠を得しめるもので、其方法は高熱の時に布片を冷水に浸して軽く絞つて胸にあて、其濕布が熱の爲に乾きさうな時に取換へ、又熱の低い時とか快復に趣きつゝある場合には、温湯に浸して絞つたものを用ひるのです。次に咳嗽と咯痰で苦しむのを軽くするには吸入法が一番よろしい。是には一々醫師の命令によつてお行いなさい。一體加答兒性肺炎は、急に病狀が變化して窒息などを起した場合に、醫師の來る時期が後れたり、手當を誤つたりすると、可惜可愛小兒を失くするやうな事がありすから、何時でも醫師に來て貰へるやうに、總ての準備を整へておかねばなりません。

百日咳の手當

百日咳は小兒ばかり罹る一種の流行病ですが、これに罹る初めは咳が出て、晩方になると熱が三十九度から四十度位に上ります。けれども此の外に別段悪い所がないも

のですから、最初は何病氣か判らぬ位です、そして一週間か十日も経つと、咳が段々劇しくなり、長く息をひく咳をして、時々痙攣たりするから、小児の顔色は紫色になつたり、鼻血を出したり、嘔吐たり、甚だしいのになると眼から血の出るのがある。咳の出るのは病の輕重によつて一樣には云へませんが、一日に十四五回から四五十回もやる事がある、それに晝よりも夜分が酷いので、實に見る目も苦しうです。母親としての注意は、十月の末から四月末頃までの間は、風邪をひかせぬやうにするのが專一です。若し夜分少しでも咳嗽が出たならば、晝間もよく注意して、寒い風に當てないやうにするのは勿論、南向きか何かの温かい室でばかり遊ばせ、全快するまでは外出させぬやうにするのが肝要です。又夜間咳に苦しむ時には、病兒を抱き起して背を撫で、痰を吐かして樂なやうにせねばなりません。又咳を鎮めるには石炭酸溶液の蒸氣吸入が最も有効です。

麻疹の症状と経過

麻疹は一度罹ると大抵は二度と思はぬ病ですが、矢張り一種の傳染病で、患者の唾、痰、涕、涙、汗垢等から感染するのです。此の病毒に感染してから、通常十日間の潜伏期を経て、始めて鼻汁が出てクシヤミが頻りに出る、それから眼が赤くなつて痒い爲に涙が出たり、眩しくなつたり。眼脂が出たりします。次に咽喉の邊が赤く腫れて咳と共に熱が四十度近く上つて、三四日すると皮膚一面に紅い出疹物が來ます。醫師の方では之を發疹期と云つて、此の粟粒のやうな赤いものが、顔面から身體中に出て來ると、熱が四十度以上上つて、咽喉に痒味を覺え、頭痛が烈しくなつて嚙言を云つたり。痙攣けたりする。又腰の邊や關節が痛み、食欲が進まぬに反して非常に咽喉が渴き、四十度以上の熱が依然として下らない。此の期間が四五日續くと漸次に熱が下ると同時に、赤い發疹が茶色になつて、次第に消えるやうになる、恚うなれば既う快復期に向つたので、發病から全治まで約三週間といふのが通例です。

麻疹と看護の注意

麻疹の容態は右のやうなもので、経過へ良ければ餘り心配すべきものではないが、熱の爲に往々肺炎、結核、耳病、眼病等を惹起す事があるから、看護者は大に注意が肝腎です。そこで本病の場合には、子供を隔離して、清潔で静かな室に移して臥かせ、成べく人の出入を禁じて、消毒を怠つてはなりません。食事は成べく消化の良い物を運び、牛乳、ソップ、重湯、生卵の如きを與へ、固い物を禁じて、殊に腸の病氣を起さぬやうに注意せねばなりません。

皮膚の發疹が全く取れ、熱が去つてすツかり其痕が無くならぬ中は決して外出させないやうにし、殊に快復期は呼吸器病に罹り易いものですから、特に氣をつけねばなりません、若し快復期に攝生を怠ると、前述の如き餘病を伴うて、其爲に一命を失ふ者も少なくありませんから、看護の任にある母親は厳しく子供を保護せねばなりません。風疹の際も矢張り右と同様の手當をなさるが宜しい。

小兒と下痢の手當

小兒が下痢した場合には其飲食物の脂肪分を減するのが最も肝要です。元來脂肪濃い物は下痢を起さす基です。ですから牛乳を飲んでゐる小兒ならば、その牛乳の分量を減らすのです。然るに之を間違つて、お粥を食べてゐる子供が下痢した場合に、親は流動物が良いと思つてお粥を止めさせ、其代りに牛乳を與る事がありますが、之は大なる誤りで牛乳は脂肪が多いから、却て下痢を助けるやうなものです。此場合にはお粥や葛湯が最も宜しい。それから卵やソップよりも小魚の類がよろしい。又茶に砂糖を少々入れて飲ませると、一種の下痢止めになります。それから更に大切なる心得は、小兒の腹部へ温濕布をするのです。温濕布とは菟蓐を茹で熱くして布片に包み、腹部へ當てるのですが、時々温めなければなりません。若し菟蓐のない場合には、布片を湯で熱くしたのもよろしい。腹を温める爲に、熱がなかつたら湯に入れても關りありませんけれど、熱があつたらば腰湯、即ち腹から上は着物を着せた儘、腹部以下を鹽に入れて、坐浴させるのです。恚うしても下痢が止まなかつたら醫師と相談もので

す。

小兒腹痛の手當

未だ口を利かぬ小兒の腹痛はどうして判るかと言ふに、兩足を腹の方へ屈めて泣くので分ります。その腹痛にも下痢する場合と、下痢しない場合とがあります。下痢の如何に關はらず腹痛には、前述の如き温濕布と坐浴で腹を温めるのが最も良法です。熊の膽を飲ませても効がある。それから便が通じないで腹痛する時は、洗腸をせねばなりません、家に洗腸の機械が無かつたならば、藥種屋へ行くと飴棒のやうな藥がありますから、それを肛門へ挿し込んでやると直に通じます、元來小兒は一日に一回位通じがなかつたらば、翌日洗腸する必要がありません。でないと體內熱をもつて種々の病氣に胃され易くなります。

小兒感冒時の心得

子供が風邪をひくと先づ鼻が出るものです、その際にはどうしたら宜からうかと申

すに、之は鼻加答兒を起したのであるから、普通よりは温かに着物をきせて、室内の温度を高め、且つ温かい物を飲食させて發汗させるに限りませす。此の鼻加答兒が劇しくなると、鼻で呼吸する事が出来なくなるから。哺乳兒などは乳を飲み得ないやうになる。それが爲め危険なことがあります。恁那時にはコカエンと云ふ藥を五十倍の水に溶かして、鼻腔へ注ぎ入れてやると、間もなく鼻から呼吸が出来るやうになつて、乳を飲むに差支へなくなります。又風邪の爲に熱の出た場合には、先づ頭部を冷し、高熱だつたら胸部を冷さねばなりません。然るに親達の中には、小兒が感冒に罹つたら、何でも暖かくしてやらねば可愛相だと思つて、無闇に熱くしてやる人があるけれど之は大なる間違ひで、その爲に却て腦膜炎などを起すのがあります。又熱があると云つて水を與へずに、湯を吞ませる親もありますが、これ亦た誤りで、清涼な水を與へるのが最も宜しいのです。それから發熱の際は薄衣させた方がよろしい。小兒が熱くて苦しんでゐるのに、其上厚衣させるのは二重の苦痛を與へるやうなものです。ツ

マリ熱の高低によつて、衣服の厚薄に注意することが肝要です。

脳膜炎の症状

小児病の中で最も怖ろしいのは脳膜炎で、昔は驚風の蟲と稱して十中の八九まで助からぬものとしてあつたが、之には結核性脳膜炎と、急性脳膜炎との二種あります。結核性脳膜炎の初期は、青い便をしたり乳を吐いたりして晝夜ともに殆んど睡りついでです。而して親が仕向けなければ二日も三日も、乳も飲まなければ食物も食はず、始終ウツトリとして何を見ても喜びもしなければ笑ひもせず、折々顔をしかめて頭脳でも痛さうな容子をします。それが段々進むと後頭部から頸の筋が堅くなつて、手足は突張つたまゝ、暫く縮まらぬやうになり、遂に痙攣を起して死亡するやうにもなるのです。恙う徐々と来る脳膜炎は十中の七八まで助からぬものですが、然し手當が早く行届きさへすれば、治らぬとも限りません。次に急性の脳膜炎は、昨日まで元氣よく遊んで平常の通り乳も呑めば、食物も進む、兩便なども異りのない健康な小児が、今日

になつて急に熱が發り、乳や食物を吐き、未だ痛いと痒いとも云ひ得ない小児にあつては『頻りに顔をしかめて頭の痛む容子をする、既に口の利ける子供は『頭が痛い』と頭をおさへて苦痛を訴へます。恙る徴候が見えたら親達は早速醫師を迎へて、應急の手當を施さねばなりません。

脳膜炎の應急處置

脳膜炎は急に劇しい熱が出て、それが二三日は續くと痙攣を起すやうになります。そこで痙攣でもすると親達は非常に狼狽して、醫師を迎へるにも實に慌て居るが、然う驚かんでも宜いものですから、充分氣を落着けて手當をするのが肝要です。先づ痙攣たら取敢へず頭部を冷し、醫師の来るまでは靜かに臥せておいて、氷なり冷水なりで顔や頭部の熱を去るやうに致し、衣服を寛げてやる必要があります。一時間や二時間位痙攣たまゝで靜かに寢せておいても、決して心配になるものではありません。醫師が來て適當なる處置を施せば、直きに輕快になるものですから、左まで狼狽るも

のでありません。尙ほ痙攣した時の應急手當に就いて詳しい説明は、後の『救急療法』の部にありますから御参照願ひたい。

小兒癲癇の心得

癲癇は恰度痙攣した時と同じやうな徴候で、素人の眼から見ても、之は癲癇であるか又は他の病氣から來た痙攣であるか一寸判り悪いものです。痙攣する癖のある小兒で、極く軽いのだと、一時一寸氣を失つてソコへ倒れても、親達が驚いて介抱に行く間に既う氣がついて了ふ、ホンの一寸の間痙攣してゐるのですが、恚んな状態に陥る事が月に三四度もあるとか、一年に一二度位しかないと云ふのは凡て病症によつて皆な異なります。今述べたやうに僅かの間に癒るのは眞の癲癇で、他の病氣によつて起るのでありません。而して此の癲癇は親からの遺傳もあれば、又腦に故障のある爲に自ら發するものもありますが、輕症なら子供の時に良醫の治療を受ければ大抵は治るものです。若し不幸にして恚る小兒を持たれた親達は、小兒の時から怠らず治療を加へて、

お育てなさい。さうすれば成人の後に無慙を見せるやうな事はありません。そこで癲癇の發作した場合は、痙攣した時と同じ手當を施すやうになさい。

夜驚症と母の心得

夜驚症は小兒の神經病とも云ふべきもので早く癒さぬと、随分厄介なものです。母親なり保母なりが折角小兒を寝せつけて、イザこれから自分の用事にとりかゝらうと云ふ際になつて、漸く坐りかけた頃になると、突然小兒が慄へて泣き出すといふ有様、中にはムツクリ起き上つて震ひながら泣くのがあつた。之は精神が恐怖の念に刺戟されてゐる爲で、小兒をして恐怖の念を起させないやうにすれば、決して夜驚症などになる事はありません。怖い話をして、おびえさせたり、脅かして怖れさせたり、厭がらせを云つて怒らせたりすると、遂に此の病を起すのです。そして一度これに罹ると小兒の腦に、イツまでも恐怖の念を残して、容易に治るものでありません。そこで小兒が夜泣きをしてお困りになる場合には、毎夜寝せる前に臭素加里といふ薬を〇、五グラ

ムばかり、砂糖湯の中へ入れて服ませて御覧なさい。そして精神を安静にせしめて、二三週間之を續けると、大抵は癒ります。若しそれでも効がなかつたら、脳病の専門醫にかけて、根本的治療を施すより外はありません。

第十一 婦人病と出産前後

◎血の道の變調◎血の道と看護法◎出産前の準備◎産床の設備と必要品◎産婆の來るまでの用意◎産婆の間に合はぬ時の臍帶の截断法◎産後母體の手當◎初湯の使はせ方◎嬰兒其他出産の後始末

血の道の變調

俗に血の道といふ病は主に生殖器障害、神經の異狀等から原因するので、婦人病の大半を占めてゐて、大抵な婦人は血の道を病まぬ者はないと云つて可い位です。これに罹ると精神變動が劇しくなつて、少しの事で泣いたり笑つたりする容態は、輕い精神病患者のやうなものである、随つて頭痛がする、顔色が悪くなる、眩暈がする、動悸が強くなる、逆上せる、月經不順になる、妙な感覺が起つて平常好きな物が嫌ひになつて、嫌ひなものが好きになつたりする、汗をかく、時々熱が起る、便秘する、消化不良になる、安眠が出来なくなる、其他痙攣が起つたり、手足が痺れたり、食物の味が變つたり、生殖機能に變動を起したり、甚だしいのになると卒倒して人事不省

になつたりして、精神上にも肉體上にもいろいろな變化を來します。而してこの病氣は三十歳以上から四十五六歳の月經の閉止の頃の婦人に多いものです。で之を豫防するには子供の頃から、親達が注意して精神の安靜と、肉體の攝生とを守らせねばなりません。

血の道と看護法

血の道を治すには、その原因療法が專一です。例へば腦の爲に來たものなら腦を癒し、生殖器の障害に因るものならば、其方から根治するといふ工合に、何でも病の本元を退治せねばなりません。是等は醫師の役目に譲るとして、看護人の心得は、先づ患者の信用する醫者を擇ぶのが肝要です。如何に名醫でも病人の信用せぬものを、壓制的に招いで、壓制的に藥用させては、悪くこそなれ、決して治なる道理はありません。次には患者が満足して運動するやうな方法を考へねばなりません。庭園の掃除、植木の手入れ、ロンテニス、駆けつくら等、兎に角氣任せの運動をすゝめて、クヨク

ヨ物事を考へてゐる暇のないやうにするのが最も得策です。それから冷水摩擦、深呼吸、冷水灌注(頭から水をかぶる事)海水浴等は何れも神經を強くする良法です。次に滋養分に富む食物を代るゝに與つて、身體の營養を計ることは何の病氣にも必要ですが、特に本病にはそれを怠つてはなりません。今朝は淡如した湯豆腐を用ひたら、午飯には鯛の鹽焼、晚餐には鶏肉鍋といふやうに、始終品を換へ、或は料理法を異にして、珍らしく楽しみつゝ、滋養をとらせるやうに心懸け、内服藥としては阿魏、續草、臭剝、抱水格魯拉兒、等を主に用ひますが、此の調合は醫師に聞かねばなりません。唯だ最も慎むべき事は、患者をして不規則な生活をさせないやうにする注意です。

出産前の準備

お産は婦人にとつて一生の大厄で、良い子を産むか悪い兒が出来るか、生るか、死ぬるかの一大事ですから、産婦は勿論、家族の者も亦注意の上にも注意をせねばなりません。尤も出産を取扱ふのは産婆の役目で、敢へて素人が知らんでも差支へないや

うなものです。お産ばかりは豫め時日が解らぬ上に、思つたよりも早く生れぬとも限らぬ。其場合に産婆の來るのが若し間に合はなければ、家内に居合はす者は、主人でも亭主でも何でも取上げてやらねばならぬ。況んや婦人として出産時の手當や、看護法の一通り位知らぬやうでは、正逆の場合の役に立ちません。そこで臨月が近づいたら、看護の任にある者は、先づ産室の選定をする必要があります。成べくならば南、又は東向き、六疊敷以上で、空氣の流通の宜い静かな室がよろしい。そして産室に必要な器具や雑品は、悉く他へ移して清潔を專一として産床は室の中央に設け、周圍に人の坐られるやうに、充分廣々とした方が好い。

産床の設備と必要品

産床は通常の敷布圈を用ひ、若し其蒲團が薄かつたら二三枚も重ね、その上へ汚物が溢れても透らぬやうに油紙を布き、更に其上へ上敷を被ひ、上敷の四隅は布圈を縫ひ合せて脱れぬやうにします。それから産婦のお臀や背中の當る所には、脱脂綿又は

薬灰を入れて製したる褥を設けておかねばなりません。この褥は排泄物の爲に汚れ、更に新しい物と取換る必要があるから、前以て二つも三つも拵へておくやうにし、枕は軟かで大きな「ク、リ枕」が好い。尙ほ出産時の必要品を列記すれば左の如きものです。

- △剪刀 臍帯を結紮る糸——之は太く軟かで切れ難い麻の如きもの△驗温器二本、
- 一は體温用、一は浴用である△百倍の石炭酸水二三升△沃土ホルム△ガーゼ△脱脂綿△繃帶三種、一は丁字帶、一は腹繃帶、一は臍繃帶△金盥四個△便器△アマニ油
- 紙十枚△良質の石鹼△後産排泄物の容器△良好なる葡萄酒△石炭酸ワセリン
- 凡そ以上の類で、大抵は産婆が携帶して参りますが、萬一の用意に備へておく必要があります。

産婆の來るまでの用意

陣痛が附いて來たら、先づ産婦を産床に臥かしめ、一刻も早く産婆を迎ふべきだが、

一方にはドント、湯を沸し、使用すべき器物類を適宜に配置する。即ち温湯を入れるべき手桶と冷水の手桶、赤ン坊の浴みする盥、手などを洗滌消毒すべき金盥四個、一は清水、二は温湯、アトの二個は消毒水を盛るもの。それから鉄、臍帯の糸は消毒液中に浸して置き、石鹼及び手拭、ガーゼ、沃度仿膜、赤ン坊の着物、冬ならば二三の湯タンポ、産婦の飲食物、例へば牛乳、鶏卵、葡萄酒の如きを取揃へ、無用の人や子供は一切室内に入らず、産婦には便器を以て用を足させ、櫛笄簪等は抜き去ると共に、かもしを入れてゐる人ならば之を取つて髪を束ね、其他入歯の如きも脱した方が宜しい。恚うしておけば既う産婆の來るのを待つばかりで、何時生れても差支へありません。而して産婆が見えたならば、それに手傳つて萬事指圖通りにするのです。

産婆の間に合はぬ時

若しも産婆の來ない前に生れさうだとか、又は産れた時はどう致しませうか、これは待つて呉れと云ふ譯に參りませんから、素人であつても何とか處置せねばなりません。

ん。そこで看護の任に當る人は先づ襷がけになつて、石鹼で両手をよく洗ひ、更に石炭酸水で消毒した後、産婦の外陰部をガーゼに石炭酸水を浸して充分拭ひ清め、段々生れさうになつて來たら、産婦をして口を閉ざさしめ、手と足に適宜なる支へを持たせ、ウーンと力ませるのです。然し之は痛む時に乗じてのみ行はせるので、痛みの歇んでる時は成べくやらせぬ方がよい。痛のない時に、力を入るゝは勞して效なきのみならず、却て疲れを招いて害になるからです。而して産婦の仰向けに臥てゐる時は臀部に枕を入れ、横臥してゐる場合は兩腿の間に枕を挿むやうになさい。恚うしてオギヤーと産れて來たらモウ占めたものです。直に温めたる布片を以て赤ン坊の全身をみ、顔面だけ出させて置くのです。

臍帯の截斷法

赤ン坊が産れた後、漸次子宮が收縮して、臍帯の脈搏が全く絶へた時は、小兒と胎盤とを絡いでゐるところの臍帯をお截りなさい、嬰兒が産れ落ちても、臍帯の脈の止

むまでは、小兒は尙ほ母體から幾らかの血を受けとつてるものですから、臍帯を切るのは脈の全く絶えた後でなければ可けません。之を截するには、囊に用意しておいた麻糸を以て、赤ン坊の腹を去ること大凡二寸位の部を、固く二重に結紮り、更にそれから三分ほど隔れた所を同じやうにぎゆつと縛つて、其中間を缺で剪り離すのです。截り離して了つたら赤ン坊を温かく包んだきりで傍に置か、又は保姆の手にでも渡します、それから少時経つと後産の陣痛が起つて、脱離がするのですが、その脱離物が陰裂間に見えたならば、消毒した兩手で之を引出し、そして胎盤容器へ静かに納めるのです。

産後母體の手當

さて今度は出産後の始末ですが、既に後産が終つたならば、産婦の臀下にある所の汚れたる褥を除き去つて、新しい物と敷き代へねばならぬ。けれども此際産婦は成べく静に臀部を擡げるやうにし、決して強く身體を動かしてはなりません。それから

産婦を仰向けに臥せたまゝで、其脚を左右に開かして、陰部に損傷があるか無いかを確かめ、若し損傷があつたら、速に醫療を乞はねばなりません。それまでの手當として例の石炭酸水を以て洗ひ、沃度ホルムを撒布したガーゼを貼て、その上にアマニ油紙を被ひ、丁字形繃帯、即ち越中褌のやうに繃帯し、且つ腹部にも同じく繃帯を當て腹帯をさせるのが肝要です。之が終ると大抵産婦は睡眠を催すものですから、四邊を静かにして暫らく安眠を得させたがよろしい。但し睡眠中は顔色その他の容態に注意して、異變のないやうに氣を配らねばなりません。

又分娩後産婦が飲食物を欲した時は、牛乳、鶏卵、ソップ、粥、沸し冷水等を與へても差支へありません、次に産婦が眩暈を起しましたならば、盃に一杯ほどの葡萄酒に水を割つて與へ、顔面に冷水を噴きかけます。それかち悪寒がした時は、重い夜具を澤山かけずに、成べく輕くて温い毛布の類を二三枚もかけて、足元に湯タンポを入れたが宜しい。

初湯の使はせ方

幾人も手傳けのある場合なら、赤兒に直様初湯を使はせるに越した事はないけれど、何事も一人で行らねばならぬ時には、産婦の處置を終つた後にするの外はない。で湯を使はせるには、豫て用意して置いた湯盥の許へ小兒を携へ行き、浴用檢温器を以て攝氏の三十五六度を標準に湯加減を爲し、そこへ小兒を兩手に載せて靜かに入れます、そして左の腕を枕にさせ、右手で先づ顔を洗ひ、次第に身體から手足を洗つてやるのです、又小兒についてゐる汚物は、石鹼をつけて充分に洗ひ清め、眼の周圍と口内とは別の器物に盛つた温湯で洗ひ、他の清潔なる布片で拭ひ清めます、清め終つたら湯から出し、乾いた大きな西洋手拭ですツかり濕り氣を拭うて、衣服を着せるのですが、其際は更に臍帯に異常なきかを檢べ、若し結紮した糸が弛んだり解けてをつたりした時は、充分確と結紮直し、お臍の附根へ石炭酸ワセリンを塗つて、軟かに繃帶して置かねばなりません。

嬰兒其他出産の後始末

赤兒に衣服を着せる前には全身を隈なく檢べて見る必要があります。若又肛門や尿道の閉ぢてゐる等の不具な點があつたら、直ちに産婦の夫に告げて、醫士の治療を乞はねばなりません。さうでない完全な育つべき小兒をさむく一生の不具者にするか、或はそのまゝ死ぬやうな事があります。そして産婦には決して不具だなどと告げてはなりません。若しウツカリ其様ことを告げやうものなら、左らでも神經に異状を來してゐる産婦は、忽ち人事不省になるやうな危険を招きますから、返すくも之は一大注意が肝腎です。

それから産婦が眼の覺めた時は、更に今一度外陰部を檢査して、強き出血なきかを確かめ、産婦の求むると否とに拘はらず、便器を以て大小用を足さしめたる後、石炭酸水に浸した布片で局部を淨め、沃度ホルムガーゼを貼て、以前の如く丁字繃帶を施して置かねばなりません。恚うして凡ての器物を片づけ、汚れた物は取纏めて他へ移

し、分娩用の器具は清潔に消毒いたします。そこで先づ安じたよりも産むが易いとの
諺通り、目出度しくと局を結ぶのです。

第十二 醫師の手助

薬液蒸氣吸入法の洗滌のいろく、灌腸法のいろく、皮下注射法、濕布繃帯のやり方、冷電法と温電法
◎芥子泥と水蛭の貼方の繃帯諸般の心得◎病人の供する飲食物
病氣の種類は千差萬様で、なか／＼以上述べた如きに止まりませんし、随つて看護
法も此他にふいませうが、然し素人の家庭に出来るやうな療法や、看護法は以上で大
抵述べ盡した筈です。若しこの外にありとすれば、それ等は素人の手に負へぬものと
看做さねばならぬ。扱て以下は醫者の手補とも謂ふべき吸入法、洗滌法、濕布、覆法、
灌腸法等、一寸何人でも知つておかねばならぬ心得を説明致します。

薬液蒸氣吸入法

此法は主として呼吸器の疾病に用ひらるゝものです。或時は氣管支や肺の奥に膠着
いた粘液を溶かす爲に施し、或場合には呼吸器内を消毒して微菌の殖えるのを防いだ
り、咳嗽を鎮めたりするために行ふのです。最も多く用ひられるのは蒸氣吸入器で、

これから薬液の細かい霧を湯氣と共に噴出させ、患者の口に接着けて気管内へ蒸氣を輸るのです。そこで吸入器の構造や用ひ方は豫め醫師に聞いて置いて、その指圖通り一日に二三回づつ病人に施します。唯だ蒸氣を噴出させる際、餘り沸騰させすぎて、患者の唇頭に湯傷をさせぬやうに注意せねばなりません。又暗母尼亞の如き揮發性の薬液は、單に瓶の口を脱いて直接に吸入せしめるか、或は海綿に點しこんで吸入させた方がよろしい。

洗滌法のいろいろ

洗滌法は病氣の種類によつていろいろ異ひますが、主なるものは、外傷、耳孔、鼻腔、胃、腔、膀胱等に薬液を注ぎこんで患部を洗ふのです、この洗滌器には大體二種あつて、一は硝子や金屬に製した水鐵砲のやうな形をしたのと、一は護謨スポイトと稱する球状をしたものに細い口をつけたので、之が一番多く用ひられます。又イルリガートルと云ふ大きな洗滌器がありますが、これは専ら腔内子宮等の洗滌に用ひら

れます。

洗滌用の薬液はいろいろありますが、其主なるものは白湯、食鹽水、硼酸水、石炭酸水、昇汞水、ホルマリン水、硝酸銀水、曹達水、鉛糖水等で、其分量を調合の點は醫師の命によらねばなりません。若し誤つて強すぎる薬液を用ひますと、却つて疾病が悪くなみるのならず、病人は再び洗滌を嫌がるやうになります。そして薬液の温度は、病氣の性質によつて異ひますが、多くは攝氏の三十七八度が普通です。唯だ洗滌の際注意すべきは餘り強く注入しない事です。殊に耳や鼻を洗ふ時、俄かに強く洗ひ薬を注しこむと目暈を起して倒れる事がある、それに子宮や腔を洗ふにも、寒い時冷たい水ですと、これ又貧血を起して害になります。

灌腸法のいろいろ

灌腸法にも各種の方法があつて、單に便通をつけるのと、薬液を腸に送つて病氣を治療する目的と、更に又滋養灌腸と稱して、口から食物が食べられぬ病人に、腸か

ら滋養を灌ぎ入れるのと、恚う三通りある。先づ下痢を促す爲の灌腸法は、灌腸器
 (之は醫師に聞いて買入れる事)を高さ三尺位の所に吊して、患者を横に臥せ、看護
 人は左手で肛門をあらはし、油を塗たつ嘴管を右手にて肛門内に押し入れ、三寸程進
 んだ時グラムメルを押すと灌腸液は、自然に直腸内へ流れ込みます、之に用ひる灌腸
 法は冷水、微温湯、又は石鹼を温湯で溶いた水等で、一回の量は大人二百五十グラム
 子供は五十グラム乃至百グラム位です。更にこれよりも簡便なのはグリセリン灌腸
 で、之は灌腸器に大人ならば七グラム、小兒ならば(年齢に應じ)一グラム乃至三グラ
 ムほどのグリセリンを盛つて、前法に依り嘴管を肛門内にさし入れ、徐々と注ぎこむ
 と、間もなく便通がきます。次に滋養灌腸は、精神病者、食道癌、脳膜炎等甚く衰
 弱した病人で、口から物の食べられぬ者に行ふのですが、その製法は左のやうにいた
 します。

(一) 鶏卵灌腸 數個の鶏卵をよく攪交せてその量の半分位の水を加へ、再びよく

攪拌して絹篩しにかけ、攝氏の三十七度位に温めて灌腸するのです。

(二) 百弗頓灌腸 乾燥百弗頓(一種の蛋白質)十五グラムを數倍の温湯に溶かして用
 ひます。

(三) 肉碎灌腸 細かく切碎いた最良牛肉三分に一分の牛脂肪を交せて攝氏四十度
 の温湯に入れ、粥のやうにドロ／＼させて灌腸用とします。

尙ほ詳しい事は醫師の指圖によつて、適宜の處置をとることです。

皮下注射法

皮下注射は疼痛で堪らぬ時とか又は危篤に迫つた時行ふもので、元來は醫師の役目
 かも知れませんが、家庭に於ても亦一通り心得ておく必要があります。そこで注射を
 行ふには、前以て消毒しておいた注射筒内に藥液を吸ひこめておき、さて注射すべき
 部分も石炭酸水、昇汞水、酒精等で消毒をした後、皮膚を摘み上げて皺を拵へ、その
 摘んだ皺へ向けて横さまに注射針を刺込むと共に、藥液を壓出して、其痕へはコロチ

ユムを塗るか、又は絆創膏を貼っておくやうにします。

看護人の使用すべき注射薬は大抵モルヒネとカンフルに限られてゐるやうですが、その分量は一々醫師の命に随ひ、決して自己の意で分量を増減してはなりません、モルヒネは疼痛時に用ふる大劇薬、カンフルは危篤の場合に興奮させる注射薬で、何れも少し分量を誤つても大變な事になりますから、注意が肝腎です。それから注射を施す場所は、大腿の内側、又は二の腕の膨んだところが普通になつて居ますが、皮下に静脈の透いて見える部分は避けねばなりません。

濕布繃帯のやり方

濕布繃帯は大層効驗がある上に、その行方も容易で何人でも出来るものですから、甚だ調法です、そのやり方は紋波、フランネル、木綿の如き柔かな布片を三四枚重ねて疊み、之を冷水或は温湯に浸して搾り上げ、疼痛部に巻き、その上にアマニ油紙と脱脂綿を被うて繃帯するのです。そして高熱の際には冷水濕布にして一時間毎に取換

るので、肺炎、氣管支炎等を煩ふ小兒に施すと非常に効があります、創傷や炎症を起した部分には、鉛糖水又は硼酸水で布を浸して此法を施す事がありますが、その際には少しく濕布を温め、十五分乃至三十分毎に取換へてやらねばなりません。そして濕布の滑脱けるやうな場所であれば、單に布と油紙だけで、別に繃帯をする必要はありません。

冷器法と温器法

器法には冷水を用ひると温湯とするのと二種あります。冷器法は充血若くは炎症を散じ、發熱を去る爲に致すので、即ち氷嚢に氷を入れて患部に貼るのです。氷は針と金槌を以て適宜に碎き、少し解かしておいて角の丸くなつた頃、氷嚢につめて用ひます。そして患部の場所によつて、氷嚢が滑り落ちるやうでしたら、木綿の布巾に之を巻いて結びつけるやうに致し、又病人が氷嚢の重みに耐へぬやうであつたら、柱か柱に紐をひいて氷嚢を吊した方がよろしい。恚うして氷嚢を貼てますと、最初冷た

い爲に疼みを感じ、少しすると感覚が無くなつて、疼痛が快くなります。けれども餘り永く當ておくと却つて不可せんから、時々間をおかねばなりません。

次に温巻法は胃腸の痛みを止めたり、血の循環を好くしたりするのが目的で、之には懷爐、毳布、菟蓐等を用ひます、懷爐は何人でも知つてゐるから説明するまでもないが、動もすると逆上しますから、寧ろ毳布の方がよろしい、パツプは麥や米を濃いお粥のやうに煮て、厚く布片にのばし、適度の温度にして患部に貼るのです。これが冷めた時は蒸籠か味噌漉で蒸して、再び用ひます、又菟蓐法は最も簡便で、之は菟蓐を湯に茹で布片に包んで疼む場所へ當てるのです。此外火急の場合には手拭を熱湯に浸して用ひても宜しい。

芥子泥と水蛭の貼方

芥子泥は皮膚を刺戟して疼痛を止め、水蛭は充血を散じて逆上を引下げます。そこで芥子は熱湯で泥々に解いて、布片か紙にのべて患部へ貼るのですが、半時間以上貼

つておいては可けません。若し局所に劇しく熱をもつて充血を來すやうな場合には、十五分が精々二十分に限ります、之は胃痛や、痙攣の場合に用ひて大効を奏します。水蛭は血を吸ひ出させるのが目的で、其用法は強壯な蛭を購求めて、試験管又は廣口の瓶に入れ、其口を腫れた所や充血の場所へ宛てると、蛭は直ちに血や膿を吸ひ出します。若し蛭が盲く吸はなかつたならば、局所へ乳か砂糖水を滴すと充分目的を達します。そして吸ひ終つたら、其痕は昇汞水でよく消毒して、一兩日間繃帯をしておく必要がある。でないとその處から悪い細菌が侵入して、思はぬ病を併發する事があります。

繃帯諸般の心得

繃帯の目的は創面や手術した後を保護して、その分泌物を吸収せしめると共に、外部から汚物が入らぬやうに防腐するのが専一で、それには左の注意が肝要です。

(一)繃帯材料を巧に使用する事、ガーゼ、脱脂綿、油紙、巻帯の大小等は分泌物の

多少、創面の廣狹によつて、適宜に使用せねばなりません。殊に胴や脊中の如き廣い所を繃帯するには、ガーゼや綿のあて方に厚薄のムラがないやうに巻かねばなりません。

(二) 巻方の平等なる事、繃帯を巻くに當つて、手の力に強弱のある時は、強く緊つた所と弛い所とが出来て、強すぎるときは血行を妨げて水腫ますし、緩きにすぎるとは脱滑けて、その隙間から有毒物が入るから、巻方は努めて平等にしなければ、繃帯の効を奏しません。

(三) 患者に苦痛を與へぬ事、繃帯は何れにしても多少身體の自由を束縛するものですが、之が爲に苦痛を感じるまでにしては可けません。頸部や頭部を繃帯した爲に逆上を來したり、胸部を繃帯して呼吸を困難ならしめるやうでは、決して巧みなる行き方とは申されません。

(四) 繃帯巻きの順序 纏絡の順序は先づ細い所から太い所へ巻き進むのが至當で

す。例へば腕に施すとすれば先づ指の端から巻き初め、次に脈搏所から漸々進んで二の腕へ來て止めるといふ工合にしますので。

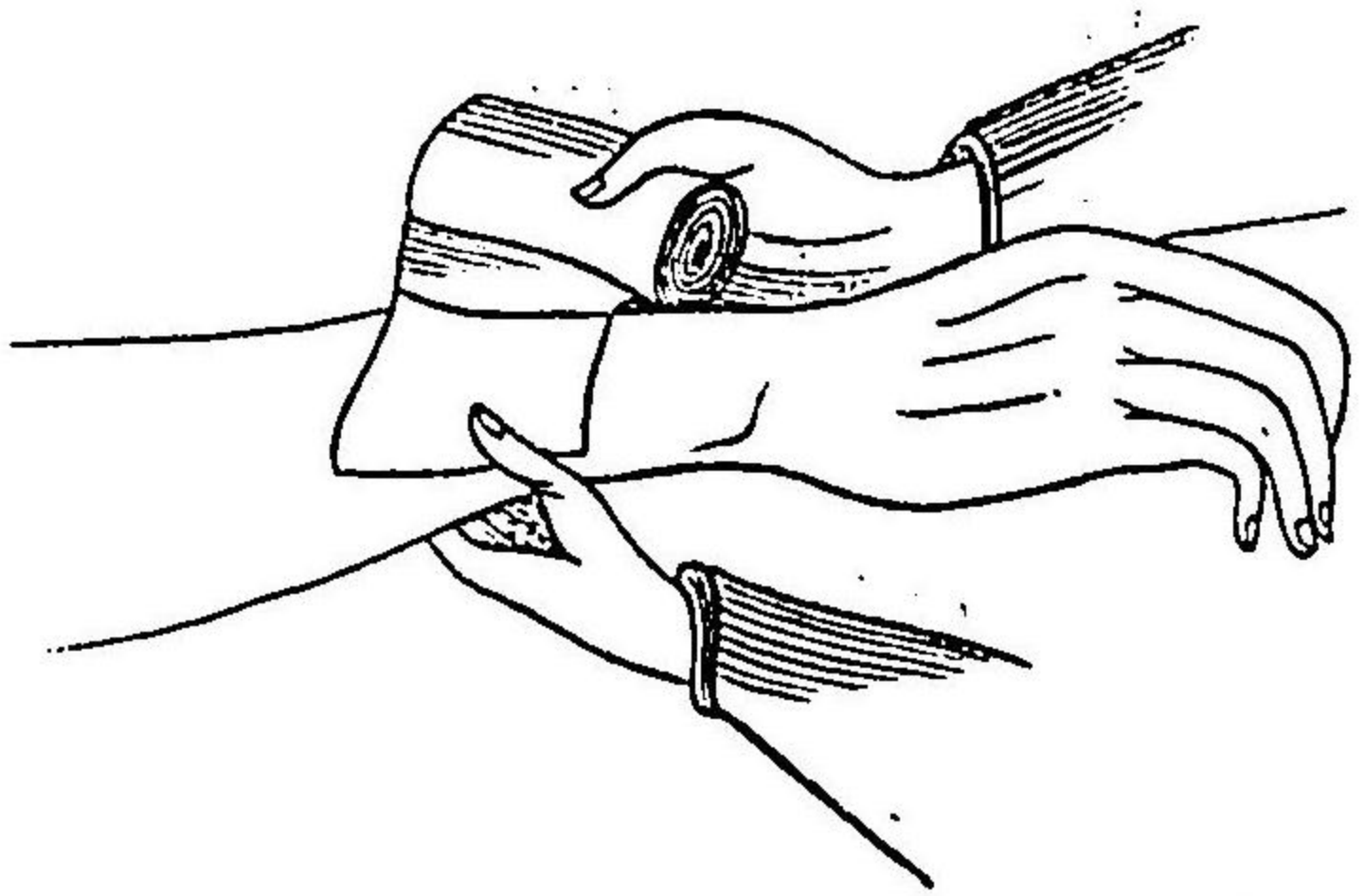
之が先づ雑とした心得ですが、その巻き方は圖に示す如く、左の手に巻帯の端を抑へ、右手でグル／＼上の方へ巻き上げるやうにしますので。然し肩から乳の邊へかけて巻

かねばならぬ大繃帯に至つては、一寸茲で説明した位では解りませんから、そんなのは専門家について教はるより外はありません。

病人に供する飲食物

之は敢て醫師の手助けと云ふではありませんが、食事の如何は病人にとつて何よりも大切な事ですから、看護人の御参考までに書き添へて置きます。

▲米スープ 上白米三合をよく磨ぎ、之を沸騰した湯の中



第十二 醫師の手助

へ入れ、凡そ十分間ほど煮たる頃味噌汁の中に揚げ、別にスープ鍋に一升の水を入れ、そこへ牛肉又は鶏肉を少々細かに切つて加へ、右の煮米を投じ、鹽を適宜に和して約三十分間温火で煮るのです。此のスープは病中は申すまでもなく、病後衰弱した者には好適いたします。

▲麥粥と麥水 一合ほどの大麥をよく洗つて六七合の水に入れ、三時間ばかり煮てドロドロになし、其處へ病人の好む甘味なり鹽氣なりの味をつけるのです。又麥水は五勺程の大麥を水で能く洗つてソース鍋に入れ、熱湯を注して約十分間煮た後、湯をこぼして再び麥を洗ひ、また鍋に入れて水六合、白砂糖七分とレモン油を二三滴たらし込み、其水の半分位になるまで煮詰めるのです。

▲バナダ 食卓用のビスケット二三個を鉢に入れ、それに熱湯を徐々と注ぎかけて膨脹せしめ、少許の砂糖をふりかけ、若し衰弱した病人でしたら、之に適宜の葡萄酒を加へてお上げなさい。

▲鶏肉羹 稚い骨付の鶏肉二斤を骨ともに細かに切り、之を六合ばかりの水に入れて骨より肉の悉く離れ去るまで、温火で煮出します、そこへ以前の大麥水を一匙と、少しの鹽氣をつけて供します。

▲燕麥の粥 牛乳三合の中へ大匙三杯の燕麥粉を投じ、約三十分間攪きませつゝ牛乳に漬けおきたる後、之を漉してソース鍋に移し、温火にかけて矢張攪き廻しながら、十分間ほど煮るのです。そして熟したならば鉢に取つて少量の牛酪と砂糖を入れて、熱い中にお與りなさい。

▲牛乳スープ 上白米一合をよく洗ひたる後五六時間水に浸し置き、鹽を少し和せ三十分ほど温火にかけて、煮立つ頃三合の牛乳を入れ、大匙一杯の牛酪と同量の白砂糖を加へて、更に煮ること三十分間にして、冷めない中に召上るのです。此他に未だ滋養分は幾らもありますが、病氣の種類によつて食へられぬものがある、然し此邊ですと大抵の病氣に差支へはありませぬ。

へ入れ、凡そ十分間ほど煮たる頃味噌漉の中に揚げ、別にスープ鍋に一升の水を入れ、そこへ牛肉又は鶏肉を少々細かに切つて加へ、右の煮米を投じ、鹽を適宜に和して約三十分間温火で煮るのです。此のスープは病中は申すまでもなく、病後衰弱した者には好適いたします。

▲麥粥と麥水 一合ほどの大麥をよく洗つて六七合の水に入れ、三時間ばかり煮てドロドロになし、其處へ病人の好む甘味なり鹽氣なりの味をつけるのです。又麥水は五勺程の大麥を水で能く洗つてソース鍋に入れ、熱湯を注して約十分間煮た後、湯をこぼして再び麥を洗ひ、また鍋に入れて水六合、白砂糖七々とレモン油を二三滴たらし込み、其水の半分位になるまで煮詰めるのです。

▲バナダ 食卓用のビスケット二三個を鉢に入れ、それに熱湯を徐々と注ぎかけて膨脹せしめ、少許の砂糖をふりかけ、若し衰弱した病人でしたら、之に適宜の葡萄酒を加へてお上げなさい。

▲鶏肉羹 稚い骨付の鶏肉二斤を骨ともに細かに切り、之を六合ばかりの水に入れて骨より肉の悉く離れ去るまで、温火で煮出します、そこへ以前の大麥水を大匙に一杯と、少しの鹽氣をつけて供します。

▲燕麥の粥 牛乳三合の中へ大匙三杯の燕麥粉を投じ、約三十分間攪きませつゝ牛乳に漬けおきたる後、之を漉してソース鍋に移し、温火にかけて矢張攪き廻しながら、十分間ほど煮るのです。そして熟したならば鉢に取つて少量の牛酪と砂糖を入れて、熱い中にお興りなさい。

▲牛乳スープ 上白米一合をよく洗ひたる後五六時間水に浸し置き、鹽を少し和せ三十分ほど温火にかけて、煮立つ頃三合の牛乳を入れ、大匙一杯の牛酪と同量の白砂糖を加へて、更に煮ること三十分間にして、冷めない中に召上るのです。此他に未だ滋養分は幾らもありませんが、病氣の種類によつて食べられぬものがある、然し此邊ですと大抵の病氣に差支へはありません。

素人にも出来る家庭療法と看護上の心得とは、雑と以上に述べたやうなものです、
 尙ほ負傷、痙攣、危篤、卒倒、中毒等の急を要する場合に際して、醫者の来るまでの
 應急手當を、本篇の附録として書添へませう。

附 救急療法

(一)窒息の應急手當 煙に巻かれた者 水に溺れた者 首を絞つた者 瓦斯中毒の氣絶 (二)人工呼吸法のやり方 (三)卒倒者の救急處置 (四)痙攣時の應急手當 (五)出血の手當 鼻出血 口中出血 子宮出血 (六)齒痛と耳痛の療法 (七)日射病の救急法 (八)中毒時の救急法 (九)魚類中毒の手當 河豚の中毒 鱒や鮭の中毒 (十)茸中毒の手當 (十一)酒と葷の中毒 (十二)外傷の應急療法 挫傷の手當 危急時の注意 打撲の手當 刃物の切傷 釘や硝子を踏抜いた場合 (十三)火傷の簡易手當 (十四)腫赤裂れの療法 赤裂れの藥 凍瘡の藥 (十五)狂犬に咬れた時の手當 (十六)毒蛇蟲類の害を受けた時 毒蛇に咬れた時 蜂、毛蟲等に螫された時 (十七)家庭備付の應急藥品 外科用塗布藥 散布藥と消毒藥 吸入藥と含嗽藥 外科用材料 鎮痛劑と下劑

(一)窒息の應急手當

病氣が遽かに危篤に迫つた時とか、氣絶したとか云ふ不意の變事が起つた場合には、
 醫師の来るまで放つて置けませんから、家庭に於ける應急手當は、是非一通り心得て
 おかねばなりません、そこで先づ窒息した時の手當から申しますと、之は煙に捲かれ、
 水に溺れ、首縊り、又は有害な瓦斯を吸ひこんだ爲の中毒等から氣絶するに至つた者

の救急療法に就て述べませう。

▲煙に捲かれたる者を、救ひ出さんとするには幾重にも疊んだ布片で、自分の鼻口を被ひ、煙を吸ひ込まぬやうに準備して、救ひ出したならば直ちに、後に説明するところの人工呼吸法を施さねばなりません。

▲水に溺れたる者は多量の水を呑んで居りますから、救ひ上げると同時に上半身を低く伏向に臥せて、胃の邊を強く壓すと水を吐き出します、然る後身體を温めつゝ人工呼吸を施すのです。

▲首を縊りたる者を、救ふには狼狽の餘り其紐を切つてドシンと落すやうでは可けない。先づ手近の人を呼んで縊首者の身體を支へさせ、靜かに紐を切つて卸すと同時に、之も亦人工呼吸を施します。

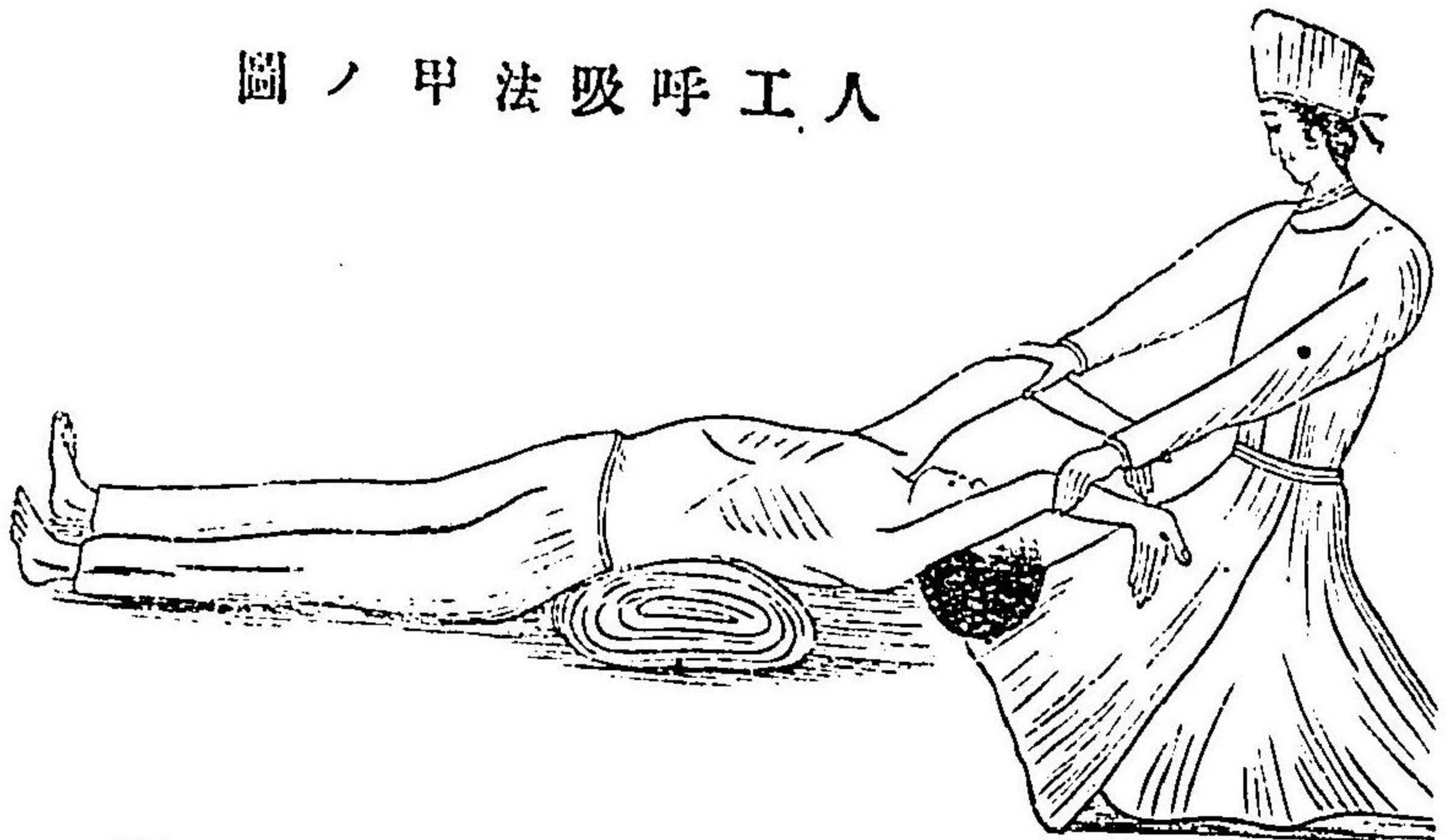
▲瓦斯中毒の氣絶 深い洞穴や、水の涸れた古井のやうな地窖の中には、酸素が少くて、有害な炭酸瓦斯が多いものですから、若し誤つて恁那所へ落ちると、其瓦斯の爲

に窒息するものです。それを救助するには、縦穴ならば傘のやうな物に紐をつけて、穴の中の瓦斯を汲出し、横穴ならば強く風を送つた後之を救ひ出して、矢張り人工呼吸に依るのです。

(二)人工呼吸法のやり方

急を救ふ場合には是非とも人工呼吸法を知つておかねばなりません、さて其やり方にはいろいろあります。茲に圖解を示したのは最も簡便な方法で、先づ氣絶者を仰に臥かせ、腰の下に衣服や枕等をぐるぐる巻にしてさし挟み、その肩を高く、頭を低くさせます。そこで施術者は、甲の圖に示すが如く患者の頭の邊に膝をついて、兩手の腕より少し上の方を握り、頭部を越える位に持ち上げて、胸壁の開張運動をさせ、次に乙圖の如く患者の兩手を胸の側に送り戻し、約二秒間押しつけたら、今度は又甲圖の如く引き伸ばして、頭より下に廻しては又引戻す、此の呼吸運動は、一分間に十五六回繰返すやうにするので、大抵は二十分位續けてゐる中に息を吹返します。然し酷く

圖ノ甲法吸呼工人



衰弱した人ですと一時間餘も蘇生しない事がありま
すから、救助者は大に忍耐して右の呼吸法に努めね
ばなりません。二時間も経つてから漸く正氣づいた
などいふ例も少なくない。そして息を吹返したなら
ば、少量の葡萄酒、ブランデーの如き興奮劑を與へ
て、血の循環を良くさせるのです。

(三) 卒倒者の救急處置

卒倒するのは大抵急性腦貧血の結果で、その原因
は驚愕、恐怖、心臓の衰弱、出血、中毒、痙攣、長
湯等から起ります。これが急を救ふには第一に新鮮
なる空氣の流通する廣い室へ運んで、窮屈な衣服や
帶を解いてやると共に、腰部へ物を敷いて頭を低く

圖ノ乙法吸呼工人



し、呼吸を強める爲に醋酸、又はアンモニアの如き強臭
のする薬を鼻の前において嗅がしめ、尙ほ顔面へ冷水を
吹きかけます。慙うして稍や精神を恢復して來たなら、
コーヒ、茶、葡萄酒等を與へて神經に力をつけさせま
す。若し此の手當を施して効がなかつたならば、更に依
的兒かカンフル注射を施し、人工呼吸によるの外はあり
ません。卒倒者は大抵顔色が蒼白くなるものですが、若
し蒼くならず却つて潮紅くなつた場合は、腦充血か腦
出血の徴候ですから、右と反對に頭部を高くして氷嚢を
用ひねばなりません。

(四) 痙攣時の應急手當

痙攣した時の取扱ひに就ては、前にも一寸述べましたが

痙攣の原因は主に脳神経の異状から来るものですから、其心得で手当をなさいます。之が應急處置は第一に患者を静かな室に移して、仰に臥せ、衣服や帯を寛げて氷か冷水で頭部を冷し、更に氷嚢を枕にさせて後頭部を冷すと共に、顔面に冷水を吹懸けてやるのも良法です。唯だ手足の冷えるのは宜しくないから、其部は湯タンポで温め、又大便の通じが無かつた場合には、灌腸を施すのも救急の手段です。醫師の来るまでは絶えず恚いふ手当をして、一時間や二時間人事不省になつてゐても、驚く事はなから安心してお在でなさい。醫師が来れば適當の處置を致しますから、それまでは始終腦を冷す事を怠つては可けません。然し餘り冷しすぎて頬や口の邊まで冷たくなつては過ぎるから、さうなつたら氷をお取りなさい。

(五) 出血の手當

外傷で出血するのは別として、病氣の爲に出血するのはいろいろありますから、其療法や手當も多少異ひます。

▲鼻出血 これは少年や少女に最も多く、其他心臟病、腎臟病等の患者にも時々鼻から血が出ます。軽い出血でしたら鼻孔に綿などを栓にして静かに仰向けに臥てゐると止まりますが、少し重いのであつたら、冷水の中に酢を入れて綿に浸し、それを鼻孔へさして置くと大抵治ります。それでも效がなかつたら五十倍の單寧酸水を鼻に吸ひ込ませるので、恚うすれば確かに止まります。

▲口中出血 之は主に齒を抜いたあとに起るものですが、軽いのなら食鹽水で一日數回含嗽をすれば治ります。若しそれで止まなかつたら止血綿(之は藥種屋にあります)を小塊くして、出血の部分へ押込むで置くのが良法です。

▲子宮出血 は主に産褥中にある婦人に多いもので、少し位なら別段心配はありませんが多量に下りるやうでしたら、前記の止血綿を消毒して子宮内に押込んで栓をします。又攝氏四十度位の温湯で屢々腔内を洗滌すると止血する事もあります。尙ほ右の外に肺出血、腸出血などもあります。既に述べた筈ですから茲に略します。

(六) 齒痛と耳痛の療法

疼痛で苦しからぬものはないが分けて齒の疼むのは苦しいものです。そこで齶齒のある者は平常齒や口内を清潔に掃除して、熱を持たせぬやうに注意するのが専一です。齶齒の痛む時は薄荷の粉を齒の空洞へ詰めて綿で栓をするか、又はケレオソートを綿に染ませて栓をしても良い。然し齒齦が腫れて血膿を持った場合には、能く消毒した小刀で其處を破つて血膿を出した後、五十倍の鹽刺水で含嗽をなし、外部の頬から顎へかけて芥子泥を貼ると大抵は治ります。

次に耳内の疼みは腦から來ると耳内炎の爲に痛むのとありますが、何れも其原因療法が肝腎です。應急の手當としては五十倍の硼酸水を温めて、耳の中を洗滌したる後、コカイン阿列布油(之は醫師に聞いて豫め用意して置く事)を二三滴綿に浸ませて耳の中へ入れるのです。又小兒などが動もすると耳の中へ豆粒や其他のものを入れて容易に取れない事がある。その場合には圓形い物であつたら、耳掻きなどを用ひては

却つて深入りするばかりだからいけません。最も簡便な法は、紙撚の先へ烏糞か節のやうな粘り強いものをつけて、耳の中から釣り出すのです。軟かくて溶け易い物だつたら、油薬をさしてスポイトで洗ふと自然に流れ出ます。

(七) 日射病の救急法

日射病は兵士、農夫、土方、車夫等が夏の眞盛り炎天に照りつけられて、水も飲まずにゐる所から起る病ですが、偶には子供などが野外の炎天に遊びすぎた爲に、眩暈がして倒れる事があります。其の前兆は非常に咽が渴き、眩暈と胸部の苦悶に次いで顔色が紅く熱し、脈は忙しく呼吸は緩かになり、足許がヒヨロ／＼して口も利けなくなると共に、紅い顔が黯んで來て、そのまゝ失念して倒れるのです。此の日射病は平常注意して豫防の爲に外出時には、水を澤山飲むに限りませんが、若し不幸にして此の前兆があつた時は、直ちに患者を日蔭の涼しい所に移して、多量の冷水を飲ませ、窮屈の衣服や帶を寛いでやつて、冷水か氷で頭部と胸部を冷し、呼吸の絶えた場合に

は人工呼吸を施します。

(八) 中毒時の救急法

中毒には薬用中毒、アルコール中毒、ニコチン中毒、魚類の中毒、茸類の中毒等いろいろあつて、それによつて手當が異ひます。然し何れの場合を問はず、中毒者のあつた時は、早速醫師を迎へにやると共に、一方には未だ胃腑の中にある毒物を取除く工風が第一です。幸に胃洗滌が出来ぬものなら、之に越すことはないが、之が出来ぬ際には、先づ一グラムの硫酸銅液を飲ませ、次に筆のやうな物で患者の咽喉を刺戟して吐き出させるか、又は多量の牛乳を飲ませて、胃中の毒物を稀薄め、同時に急劇の下痢薬をやつて、吐き下しをさせるのです。若又患者の容態が悪くなつて、脈が弱く、呼吸が止まりさうになつたら、何をさし措いても、人工呼吸を施して醫師の來るのを待つやうになさい。

(九) 魚類中毒の手當

▲河豚の中毒 俗に河豚は喰ひたし生命は惜しと申しますが、然し料理の仕やうによつては、必ずしも毒なものとは限りません。河豚の毒はその卵巣と肝臓にのみあるので、誤つて其部を食べると中毒を起します。之に罹ると先づ嘔吐、眩暈、頭痛等に次いで、手足が氷のやうに冷えて脈が弱くなります。食後間もない時でしたら、一グラムの硫酸銅を一合程の水に溶かし、之を五分おき位に二三回に分けて服させます。若し硫酸銅が無かつたなら、大量の鹽湯を吞ませて吐き戻させ、葡萄酒或は清酒を少しづつ與へて氣力を保たせ、呼吸が絶えさうになつたら、人工呼吸を施して醫師の來るのを待ちます。

▲鯖や鯖の中毒 夏季日の經つた魚類は凡て害になります。就中鯖と鯖が最もいけません。この中毒に罹ると、顔面が紅く斑をなして、頭痛、嘔吐、下痢等を起します。食後あまり時間を経ない時でしたら、鹽湯を吞ませて嘔吐させ、一時間も經つた後だつたら、二十グラム程の蓖麻子油を頓服させて下痢します。この中毒は甚だ危険な事

はないが、併し放つておくと赤痢などを起しますから、轉ばぬ先の杖が肝腎です。

(十) 茸中毒の手當

茸には種類が多くて、一々名を挙げきれませんが、毒が無いと思つて喰べても中毒する事がありますし、又不消化のために胃腸病の原因となる事もあります。無害のもの、

松茸、椎茸、初茸、しめじ、香茸、

などですが、是等の物でも傘の裏に蟲がついてゐたり、色が變つてゐたりしたならば喰べてはなりません。茸を食べた後で腹が痛んだり、嘔吐したり、眩暈がしたり、非常に口が渴いたり、汗が出たり、氣が荒くなつて暴れ出したり、無いものが見えたりするやうであつたら、之は確かに菌の中毒ですから、速かに醫師の診察をお受けなさい。素人療治としては、魚類の中毒に述べた如く、吐かせたり下したりするか、又は人工呼吸を施すに限ります。氣が荒くなつたり、無い物が見えたりするやうになると

全身が痲痺してウト／＼眠るやうになり、それぎりになつて終ふ事があるから、餘程注意せねばなりません。

(十一) 酒と霞の中毒

酒を多量に飲んで中毒を起すと、頭痛、嘔吐について精神の知覺が失くなつて、昏睡状態に陥ると共に、脈が疾くなり身體が氷のやうに冷たくなります。これが應急手當は、頭から下を温かく蒸すやうに包んで、頭部だけ冷し、顔面には冷水を吹懸けてアンモニア水を嗅がせ、漸次に神經を刺戟し、稍や正氣ついて來たら、大根おろしの汁を絞りとつてそれに少量の砂糖を加へて飲ませ、更に下劑をかけて腹中にある物を排泄せしめ、大便が通じたら、今度は牛乳にコーヒを入れて飲ませます。『なアに酒に酔つたんだから醒めると直によくなる』などと思つて、放つて置きますと、遂には慢性アルコール中毒に罹つて、生涯治らぬやうになりますから、初期の中に手當をして置かぬと可けません。次に

▲煙草の中毒 はニコチンと云ふ毒が葎の中に交つてゐて害を興へるので、之は舶來煙草の強いのに多くの毒があります、で中毒の初めは顔色が蒼白くなつて、眩暈、嘔吐、精神の不安等を來し、心臓の動悸が俄かに高まります。最も手早い療法は酒、鹽味噌、醬油の如きものを飲んで頭を冷し、更に茶かコーヒを飲むと大抵は癒ります。

(十二) 外傷の應急療法

▲挫傷の手當 腕を引つ張つて手が抜けた、相撲をとつて足を挫いた、滑つて指を傷めたといふやうな場合には、松の青葉を鉢摺で摺り碎いて成べく細かにし、是に酢を少々加へて挫いた場所へ塗りつけ、その乾くを待たず重ねて二三回之をつけますと、大抵輕いので一兩日、重いのも四五日で全癒します。然し非常の重態だつたら、却却こんな療法では駄目ですから、専門の外科醫なり骨折醫者なりにかけてねばなりません。そして患者の最も注意すべきことは食物の攝生です。一體此の怪我人は普通の病人と異つて、食事には少しも差支へないところから、平常の通り何でも喰ひたがりま

すが、打身、挫折には第一に蕎麥、第二に天麩羅の如き油氣の多いものは總じて禁物です。之を喰べると折角癒りかゝつたものでも、忽ち以前の通りに疼み出します。入浴も亦慎むべき一つで、傷所の治らぬ中に湯に入ると、有害な垢や微菌がつきます。それから膿をもつて、容易に癒りません、偏に氣をつけねばなりません。

▲危急時の注意 之は療治外の事ですが、火事だとか、地震だとかいふ急な場合に、二階三階の如き高い所にあつて、逃げるにも逃げられぬ危急の際に、思ひ切つて高い所から飛び下る人もありますが、其場合には大抵夢我夢中で飛び下りるものですから大負傷を致します。それでは折角生命懸けでした事も、飛び下りたが最後、足腰も利かぬやうになつて、撲ち所でも悪ければ其まゝ往生せねばなりません、假令一命は取留めたにしても、心得がなくて飛下りると、屹度怪我をします。そんならどうして飛下りたが可いかと云ふに、先づ足を突立て、大地へ指先を突きこむやうにする。痛い事は踵でも指先でも同じ事ですが、今申すやうにすると飛下りても直ぐに立ち上られる

無論歩行も出来て飛下りた目的が實行されます。そして療治をするにも、腫の方に比べるると、遙に容易で癒り方もすつと速かです。之は本文以外の事ですけれど、負傷の序ですから、念の爲に記したのです。

▲打撲の手當 これは主に腕白盛りの子供に就いて申し述べます。先づ七八歳から十二三歳頃の兒童が、悪戯から柱や、障子、火鉢などに頭や額部を打ちつけて、瘤や打負傷を拵へたとします。すると劇しいのは撲つが早いか指の這入るほど凹む事があります。其場合には直に凹んだ所を口で吸ひ上げておいて、其處へ白米を嚙んだのか又は黒砂糖をお附けなさい。最も効能の著るしいのは金箔です、此の金箔さへつけて置きますと、餘程甚い打傷でも、痕跡を残さず、癒つて仕舞ます。

▲刃物の切傷 小刀や庖丁のやうなもので手や指先を切つた小負傷なら、百倍の石炭酸水——これが無かつたら焼酎か酒でも宜い——で傷所を洗つて、繃帯をしておけばそれで案ずる事はありませんが、但だ動脈所を切つた時は、血が容易に止まらぬから

油断なりません。その際には、例へば前膊部の脈所を切つたとしたならば、一方は脇の關節、一方は手首この二箇所を緊と縛つて、血の通はぬやうにするのです、それから石炭酸水で洗つてヨードホルムをつけ、絆創膏を貼つて其上へ繃帯を施します。恁うしないと血がイツまでも止まぬから、遂には貧血の爲に卒倒する事などがあります。又肩や背中、頭、腰等に受けた大負傷でしたら、到底素人の手には負ひませんから、一方に醫師を招くと共に、醫者の来るまでの手當としては、石炭酸水で盛んに洗滌をして、血を止める爲に沃土ホルムガーゼと脱脂綿を傷所に押當て、尙ほそれでも出血が止まなかつたら、前述の如く關節と關節との間を固く縛つて、患者には衰弱を防ぐ爲に葡萄酒、ブランデーの如き興奮劑を與へて、力をつけねばなりません。

▲釘や硝子を踏抜いた場合 裸足で外を歩いて釘や硝子の破片などを足に踏抜いた時は、早速ピンセット（挟むもの）で踏通した物を挟み出し、石炭酸水で充分洗つて、傷に交つた泥や砂を除き去つた後、更にモ一度消毒して沃土ホルムを撒布け、穴の明

いた創なら其處へガーゼを詰めこんで、繃帯を施し、夏ならば一日二回、寒い時だつたら一日一回づゝ繃帯を仕換へて其都度、化膿を持たぬやうに充分洗滌しなくてはなりません。又竹や木片で怪我した時も、猶且同様の手當が肝腎です。然し一寸した擦過傷位であつたら、焼酎にでも洗つて絆創膏を貼つておくと治ります。

(十二) 火傷の簡易手當

鐵瓶の蔓や火箸の焼けてゐるのを知らずに握り、或は煮え沸る藥罐の蓋、洋燈の火室、鍋の耳の熱いので、チリ、と指でも焦した位な些細の場合には、直にその手を醬油に浸して冷飯を貼りつけると、大抵疼みはそれで去ります。若し又火膨れにでもなつたなら、山芋を山葵卸しですつてつけるが宜しい。尙ほそれ以上の火傷、殊に顔面や手のやうな、隠すに隠されぬ所で、痛みは去つても痕跡が残るといふやうな場合には、鉛糖水の冷罨法を行ふか、或は硼酸軟膏を塗つて其上を綿で掩ふのです。若し右の藥品が間に合はなかつたら、少し高價とも純麝香を購つて塗けますと、痕跡も残ら

ず、ヒツ、リも出來ず、癒ること請合です。然し水泡れを生じましたら、清潔な針でそれを突いて漿液を絞り出し、そこへ澱粉、硼酸、亞鉛華末等を撒布して繃帯しておかねばなりません。それから火傷を洗ふ時に、決して石炭酸水を用ひてはけません。石炭酸は爛れた所を一層爛れさせるものですから、洗ひ薬には硼酸水か二千倍の昇汞水に限ります。

(十四) 輝赤裂れの療法

寒風の時に素顔で外出したり、湯や水を使つて手を碌に拭かずに、振ひ落したきりにして置くやうな不精者では、どんな妙薬があつても何の役に立ちません。ですから手水を使つた時や臺所仕事をした時は、必ずよく乾いた手拭にすツかり拭つておくやうにしないと、輝や赤裂れの豫防になりません。そこで手足が荒れて輝赤裂れが出來さうでしたら、リスリンも無論よろしいが、あれはニタ／＼するから晝間仕事をするに工合が悪い、それにはベルツ水が最も良いやうです。次に豚の脂を用ゐる人もあり

ますが、之は腐り易いから、それを防ぐ爲に安息香酸とサリチル酸（分量の割合は何れも薬種屋に聞くこと）を入れると有効です。それから安息香酸一グラム、亞鉛華末六グラム、豚脂四十グラム、以上を混和して膏薬を製し、夜寝る前に塗けて置くこと大層よく効きます。但だ仕事をする便宜上、晝は水劑、夜は膏薬と定めておいた方がよろしい。

▲赤裂れの薬 あかぎれになつたらテール十グラムにアルコール百グラムの割合に調合したものを用ひ、それが効かぬ程甚くなつたらテールを多く、アルコールを少なく調合したのを用ひ、いよく劇くなつたらテールばかりをお用ひなさい。それからビツク氏膏、萬金膏なども有効です。

▲凍瘡の薬 凍瘡は寒氣の爲め、血管に變化が出来て其處に鬱血を起すのです。つまり貧血者や營養の悪い者、又何にもせずにはゴロ／＼寝たり起きたりして暮して居る者等が、これに罹り易いのです。ですから凍瘡にかゝり易い人は、平常よく注意して手

足を動かさし、坐つてゐる時でも成べく手を上げたり下げたりして、血の循環を良くするやうに心懸けねばなりません。又豫防なり治療なりの薬としては、沃度丁幾を薄く溶かして、それを塗り付けて置き、更にイヒチオール、アルコールを一日一回塗布する事です。以上の薬は何れも薬種屋へ行つて調合してお貰ひなさい。

(十五) 狂犬に咬れた時の手當

狂犬に噛まれた時は直ぐに手當をしないと毒が全身に廻つて、遂に狂犬病と云ふ怖ろしい病氣を惹起し、其爲に生命を失ふ事がありますから、之は最も應急の療法が肝腎です。そこで子供などが狂犬らしいものに咬まれた場合には、直ちに其傷所の血を吸ひ出すか、又は絞り出すかして、他へ毒血の循環をやらぬやうに、關節と關節の間を堅く縛り、それから醫者の許へ連れて行くのが順序です。通常醫師の所では、其部分の肉を牙の當つた丈だけ切り取つて、焼灼器か何かで其痕を焼くやうにする。ですから素人療治をするにしても、先づ其處の肉を切り去つて、焼火箸か焼鏝で焼けば宜しいので

す。若しも之を少しでも怠つてゐると、毒が忽ち全身に廻るから成べく早いほど可い。焼き方は硝酸銀か何かで唯だ表皮だけ腐蝕させた位では到底無効です。兎に角醫者の療治を受けたにしても、尙ほ安心は出来ません。何故なれば細微で眼に見えぬ病毒です。すから、其毒が悉皆とれたかどうかは判らぬ。それ故應急の手當が濟んだら、豫防注射を受ける必要があります。此の注射さへすれば屹度安全です。他の豫防注射は日數に限りがあつて、一二箇月位しか効能はないが、狂犬に咬まれた時の豫防注射は永久に効があつて病犬の毒を防ぐ事が出来ます。然し之は普通の開業醫に、注射の設備がないでせうから、外科専門醫か、病院へ往つた方が宜しい、東京では芝の傳染病研究所などが最も便宜だらうと思はれます。

(十六)毒蛇、蟲類の害を受けた時

▲毒蛇に咬まれた時 蝮その他毒のある蛇に噛まれると、其場所が非常に痛く、腫れ熱を持ち、其近所まで血色が變ります。それから嘔吐、發熱、痙攣等起して、酷

いものになると數時間後に死ぬのがあります。そこで毒蛇に咬まれた時は、狂犬の場合と同じく直に血を吸ひ出すのが最良法です。その毒は胃に入つても決して毒にならぬものですから、心配なく吸ふが宜しい。そして傷口は昇汞水か石炭酸水、又はアルコールで充分に洗つた後、硝酸銀か苛性加里で焼いておくと安心です。それから毒の循るのを防ぐ爲に傷所を緊く結んでおく必要がある。左もなくばアンモニア水を飲ませるか、又は過マンガン酸の注射療法に限り、大概な蛇の毒は過マンガン酸加里で散らされて了ひます。

▲蜂、毛蟲等に螫された時 は早速その部へアンモニア水を塗るのが最良法です。若しアンモニアが無かつたらオレフ油でもよろしい。それも無い場合には百倍の石炭酸水でよく消毒して、練油のやうなものを紙にのべて膏藥代りにするが良い。若し毒蟲に螫されて熱でも出るやうだつたら、直ぐ醫師に診て貰つて相當の治療を受けねばなりません。又鼠に咬まれた場合には、取敢へず傷口を焼火箸で焼いて、その後石炭

酸水の注射を行はねばならぬ。鼠は例のペストの媒介者ですから、注意の上にも注意が肝要です。

(十七) 家庭備付の應急藥品

看護法や應急手當を一通り心得たら、今度はそれに使用すべき藥劑や、物品を萬一の爲に備付けて置く必要があります、而して是等の藥品中には素人に賣らぬ劇毒藥が
ありますから、それは醫師の證明書を貰つて、藥種屋で購ふ事にし、又醫療器の使ひ
方や藥品の分量調合等も、一々醫師の指圖によらねばなりません。そこで主なる備付
けの藥品其他は左の如きものです。

△外科用塗布藥 沃士丁幾、カンフル丁幾、硝酸銀溶液、イヒチオール、鹽酸コカイ
ン・グリセリン・オレフ油・酒精・又膏藥としては單軟膏・ソセリン・ラノリン・萬金膏・絆
創膏。それから膏藥に調合すべき藥品は硼酸・サリチル酸・亞鉛華・水銀・硫黃等が主な
るものです。

△散布藥と消毒藥 散布藥としては硼酸・亞鉛華・沃度ホルム・ビスミット・デルマトー
ル・アイロール等。又消毒藥は石炭酸・昇汞水・フォルマリン・過マンガン酸加里。

△吸入藥と含漱藥 吸入藥としてはコロ、ホルム・エーテル。石灰水・重曹・食鹽・アン
モニア・テレピン油・醋酸等。次に含漱藥は鹽剝・硼酸・マコロール鐵液等です。

△外科用材料 出產・手術・負傷などをしは時に要する物品は、ガーゼ・脱脂綿・アマニ
油紙・昇汞綿・繃帶木綿。それから器具としてはピンセット・小刀・スポイト・檢溫器・吸
入器・寒暖計・注射器・灌腸器・消毒器。

△鎮痛劑と下劑 内服藥としての鎮痛劑はモルヒネ・コカイン・ケレオソート。下劑は
蓖麻子油・甘汞・硫苦等が主なるものですが、尙ほ此外に苦味丁幾・重曹・稀鹽酸・アン
チピリンの如きものを用意しておけば、一寸した風邪や、軽い胃病位は癒されます。

以上の藥品と材料を備へつけて置けば先づ略とした『家庭藥局』とも謂ふべきもの
で、萬一の場合には餘り狼狽すとも濟みます。然し藥の分量や用途は、一々嚴重に醫

師に質した上でなければ可けません。ホンの少し分量を誤つても一命に關するやうな事がありませんから、決して素人の一料見でやつてはなりません。生兵法は大怪我の基、呉々も綿密な注意が肝要です。

家庭看護法完

明治四十三年四月廿七日印刷

明治四十三年五月十日發行

家庭看護法

定價金參拾五錢

編輯者 長谷川善作

發行者 山縣文夫

印刷者 市川七作

印刷所 博文館印刷所



發行所

東京北豊島郡巢鴨町上駒込二十番地
電話(長距離加入) 下谷四百三十八番

内外出版協會

(振替貯金口座東京三百五十五番)

著子とも仁羽

家庭教育の實験

錢四稅郵 * 錢五拾參金價定

子女教育に苦心する母親は、この書に於て最も善き相談相手と、その不斷の辛勞に對する限りなき慰めとを見出し得べし。

(次 目)

- 一、家庭教育の基礎
 - 幼少の児童を支配する事
 - 我儘に對する所置
 - 同情を養はしむる事
 - 理性を發達せしむる事
 - 意志を鍛練せしむる事
 - 多くの長所をつくり置く事
 - 家庭教育と信仰
 - 如何にして子供を神に導くべきか
 - 天分不相應の教育
 - 神經的なる場所
 - 少少の忍耐
 - 子供と遊び友達
 - 子供の男の子
 - 兄弟喧嘩に就て
 - 男の中の女の子女の過ぐる事
 - お伽噺に就て
 - ときかぬ子
 - 玩具などを與へ過ぎる事
 - お伽噺に就て
 - 子供部屋の設備
 - 子供の遊び場
 - 幼児に與ふべき日課
 - 誕生日の祝ひ方
 - 子供の遊び場
 - 家庭祭
 - 子供の心得
 - 長じたる子供に就て
 - 少年少女時代の教育
 - 如何に子供を監督すべきか
 - 教授法と復讐に就て
 - 運鈍なる子供の教育
 - 青年に對する親の心得
 - 母親自ら感化の中心たる事
 - 如何に教育に對する短見
 - 如何に娘を教育すべきか
 - 如何に娘を教育すべきか
- 二、母親の陥り易き誤謬
 - 天分不相應の教育
 - 神經的なる場所
 - 少少の忍耐
 - 子供と遊び友達
 - 子供の男の子
 - 兄弟喧嘩に就て
 - 男の中の女の子女の過ぐる事
 - お伽噺に就て
 - ときかぬ子
 - 玩具などを與へ過ぎる事
 - お伽噺に就て
 - 子供部屋の設備
 - 子供の遊び場
 - 幼児に與ふべき日課
 - 誕生日の祝ひ方
 - 子供の遊び場
 - 家庭祭
 - 子供の心得
 - 長じたる子供に就て
 - 少年少女時代の教育
 - 如何に子供を監督すべきか
 - 教授法と復讐に就て
 - 運鈍なる子供の教育
 - 青年に對する親の心得
 - 母親自ら感化の中心たる事
 - 如何に教育に對する短見
 - 如何に娘を教育すべきか
 - 如何に娘を教育すべきか
- 三、子供のためを經營したる事
 - 子供部屋の設備
 - 子供の遊び場
 - 幼児に與ふべき日課
 - 誕生日の祝ひ方
 - 子供の遊び場
 - 家庭祭
 - 子供の心得
 - 長じたる子供に就て
 - 少年少女時代の教育
 - 如何に子供を監督すべきか
 - 教授法と復讐に就て
 - 運鈍なる子供の教育
 - 青年に對する親の心得
 - 母親自ら感化の中心たる事
 - 如何に教育に對する短見
 - 如何に娘を教育すべきか
 - 如何に娘を教育すべきか
- 四、世帯に入りたる注意
 - 家事の整理等荷くも
 - 一家の經營
 - 細大漏さず之を
 - 中等社會の生活
 - 標準としたるを以て此書は實際の効用
 - 著者が羽仁もと
 - は甚だ少からざるべきを疑はず而して其
 - 子夫人たるの一事は即實用を主として
 - 空理を談するものに非ざらんを證するものと云べし。
- 五、都新聞評
 - 羽仁もと子と子女史の著者
 - 明晰にして解し易く、其思想は實際を旨とし参考に適す、理論の問題
 - に於ても然るに、況して本書は如何に各人の
 - 家計を適に整理して遺算なからしむべきか
 - 解釋の鍵を
 - へんと志せし書ゆゑ、説明一層卑近にし
 - 指針とも、準繩
 - と實例に富み中流以下如何なる家の
 - 模範とも、爲し得べく、洵に賢き思ひ付の書なり、
 - 付に養成する工夫の苦心を多とし、記者は其思ひ
 - と共に、其
 - と同情とを拂ふ。

會協版出外内 地番十二込駒上町鴨巢京東 元版 番五十五百三京東金貯替振

著子とも仁羽

如何に家計を整理すべし

錢四稅郵 * 錢五拾參金價定 (版再)

『時事新報評』……一切の理窟を退け、**一百有餘の實例**を引ききて丁寧通俗に家計の整理法を述べたるもの**新世帯**に入りたる**注意**を詳説し更に家計豫算、**一家の經營**に關する事項は細大漏さず之を**中等社會の生活**を標準としたるを以て此書は實際の効用**著者**が羽仁もと子夫人たるの一事は即**實用**を主として空理を談するものに非ざらんを證するものと云べし。

『都新聞評』……羽仁もと子と子女史の著者**明晰**にして解し易く、其思想は實際を旨とし参考に適す、理論の問題に於ても然るに、況して本書は如何に各人の**家計**を適に整理して遺算なからしむべきか**解釋の鍵**をへんと志せし書ゆゑ、説明一層卑近にし**指針**とも、**準繩**と實例に富み中流以下如何なる家の**模範**とも、爲し得べく、洵に賢き思ひ付の書なり、付に養成する**工夫の苦心**を多とし、記者は其思ひと共に、其**同情**とを拂ふ。

會協版出外内 地番十二込駒上町鴨巢京東 元版 番五十五百三京東金貯替振

女子の徳を養ふ

文士 皆川正禧 譯述

淑女の美德

博士シアラー原著 全部ふりがな附

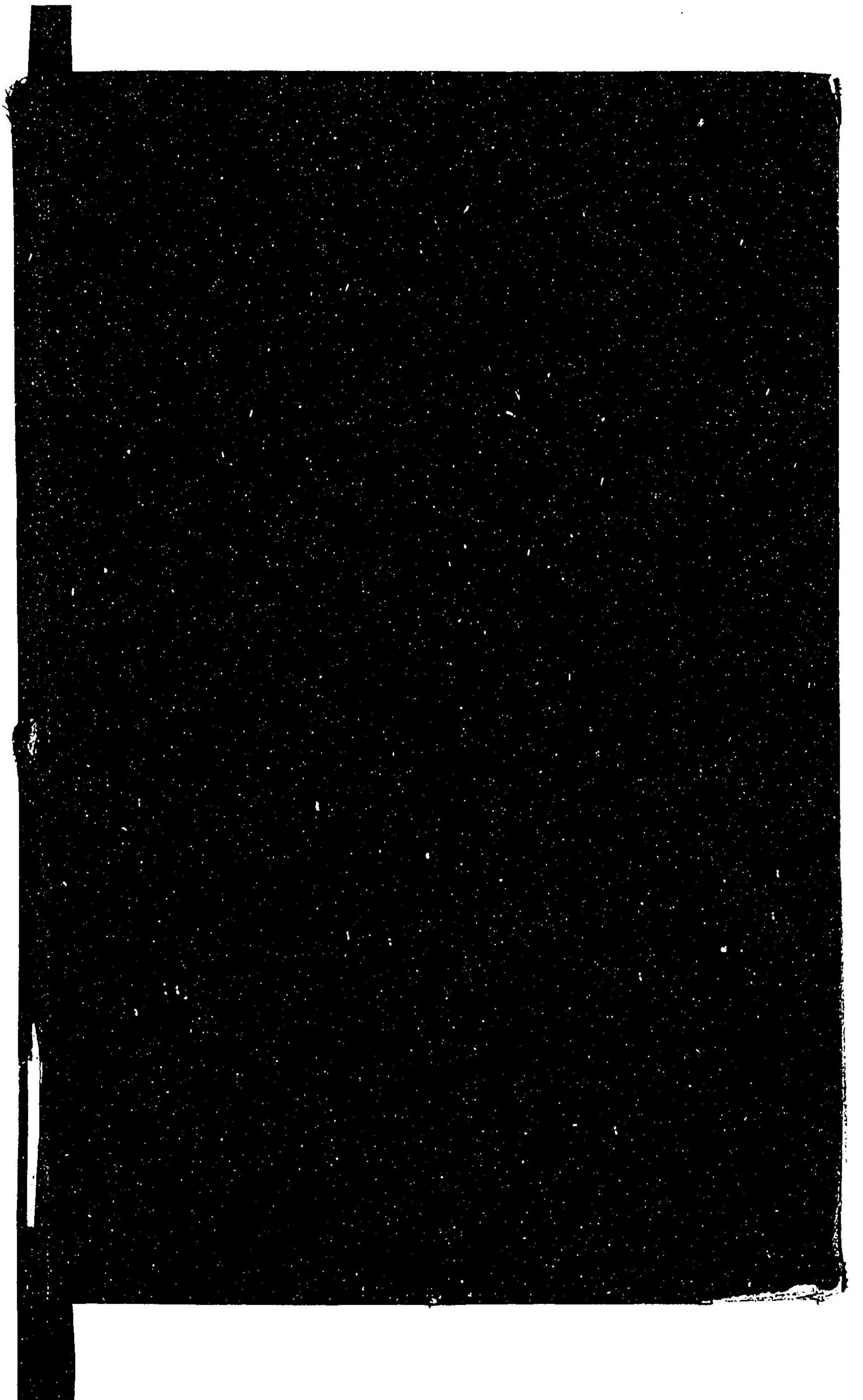
定價金五拾錢 郵稅六錢

他愛、誠實、修養、品性、朋友、快活、愛と
 犠牲、勤仕、幫助と妨害、書籍並に讀書、家
 庭の生活態度、衣服の嗜好、圓熟、世の反則
 以下二十世紀の婦人が必要適切な要項總て
 二、十九、又、言文一致の最も易き文章にて
 叙述し、又、何人にも實行さるゝ如く説明し
 たる、面白く有益なる書なり……報知新聞
 溫和なる言文一致體を以て、凡そ女としての
 新時代の美德を殘らず説明したり。女學生
 墮落の聲高き此頃、子女に讀ましむるは
 斯かる本がよろし……… 婦新聞

版元 東京 築地 上町 二丁目 十二番 地番 振替 東京 三番 五十五番 内 外 出版 協 會

60

254



60

254

058526-000-3

60-254

家庭看護法 附, 救急療法

児玉 修治 / 述

M43

CBC-0044



